

日本経営士会一木会「2019年3月」研究会報告

1. 日 時 : 3月7日(木)(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 人口減少化の日本の経済に関連して 経営士の立場で考える
～ 実質 GDP 成長を促すイノベーション、FA 化/AI による技術革新 ～
4. 講 師 : 矢島 英夫氏 行政書士、ファイナンシャルプランナー、経営士
＜講演概要＞

人口減少期の日本の経済-人間の長い歴史を振り返ると人口減少は、過去1万年の間に増加と停滞・減少を繰り返す波は4回ほどあった。第4の波は、19世紀に始まり現在に至る。少子高齢化による人口減少は先進国も未経験であり、この課題をどのように解決するか。①1つは歴史人口学から考え、②技術革新・イノベーションにより1人当たりの所得・GDPを増やして行く、③経済成長を頼らずに経済を繁栄させるには如何にするか、④ バランスの取れた経済の姿を求め、国連の持続可能な開発目標SDGsにも一致した限界を超えない“ドーナツ経済”などについて講演。

＜講師プロフィール＞

大学卒業後、鉄道信号会社に勤務。そこでリスク回避の1方法としてフェールセーフの考え方を学び、そして特許事務所に勤務。そこで「人が起こす事象は、必ず解決・解答を得ることができる。従って経済活動は人間の営みの問題であり解決できる。」ことを学んだ。上記2つの元にコンサルを組み込んだ行政書士事務所を開設し、41年間活躍中。日刊工業新聞の「経営士の提言」欄には、15回ほど投稿。

講演者自論の①フェールセーフ、②経済活動は相対的、③行政書士の世界で感じたこと、④経営士会に入って衝撃のコト、⑤経営士の考え方(リスク、ニトログリセリン、いい湯加減、⑥経済の動き一適温適圧がいい、⑦ドーナツ経済への展開であった。

縄文から始まり弥生の稲作、平安から江戸、明治維新の4度にわたる“歴史人口学から食と人間の関係”(鬼頭宏)、関連してローマ帝国でも「現在では全ギリシャにわたって子供のいないものが多く、また総じて人口減少がみられる。」から人口減少は“歴史は繰り返す”ことかと強調。そして大分岐点の第一次産業革命、エネルギー革命による人口の膨張、情報革命をへて第四次産業革命へ。日本の人口は2115年には現在の半分以下の5055万人。高齢化、結婚しない・子供をつくらない単身世帯の増加、経済格差、社会保障と財政再建など課題山積。人口減少・少子高齢化のもと、人口は日本の2/3でGDPの46%(日本は16%)を輸出依存経済のドイツは大いに参考に。歴史的な人口減少は飢饉・疫病・戦乱が原因、少子高齢化で国の総人口が減少するのは今まで経験しない。IT・AI・ロボットによる機械化経済の生産構造へシフトし人間労働の代替を。人手不足が1980年代の日本の製造業のファクトリーオートメーションを進化させ経済発展させたことは再認識要。IoT・AI時代を迎え実空間(リアル)と仮想空間(サイバー)の仕事の仕分けを、人間はよりクリエイティブ・マネジメント・ホスピタリティ系の仕事を分担。経済成長には源泉であるイノベーションが重要、外国人雇用の推進も必須。

貨幣の流れはバランスの取れた姿のドーナツ経済へ。

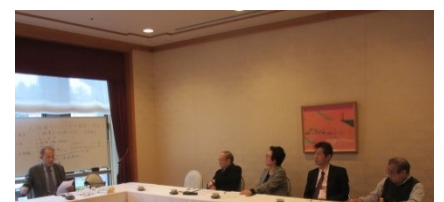
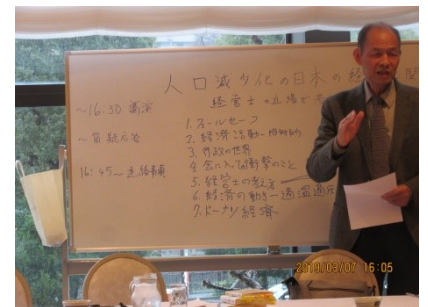
ドーナツ経済は地球(外側の環)と人間社会(内側の環、経済活動(家計、市場、コモンズ共有地、国家⇔支えているのは貨幣の流れ))として捉えている。地球は太陽エネルギーを受け人間社会はエネルギーを消費し

それを廃熱し、地球外へ熱を放出する。外側の環は環境破壊の境界線で地球環境上の制約を示す。内側の環は絶対的貧困の境界で、経済がこの円よりも小さいと貧困が深刻になる。地球温暖化が顕在化していることから環境は上限を超えていること、内側の環である人間社会は下限よりも不足しており、国連の持続可能な開発目標（SDGs）につながっていると指摘。少子高齢化、財政問題、安全保障などが国が抱える課題の中で“至福社会”を構築するためには“成長に頼らない経済繁栄”が必要。そのためには通貨量を増やしながら賃上げが必要ではないか。そうすれば、総需要は縮小せず、モノとサービスの均衡が回復、結果的に先進国が目標としている2%のインフレを実現することが可能であると参考文献を引用し力説された。

*サイエンティフィック・米国の記事で「日本人、韓国人、中国人のDNA」で一番混血度が高いのが日本。一番低いのが中国。という記事を紹介された。道理で日本人は宗教に寛大。神・仏（大乘仏教）・キリスト教など祭りごとにも寛容なのではないかと参加者の弁。 ↓ 当日の研究会の様子

<文責：西満幸>

<研究会>



終了後
近くの居酒屋“
9名で研究会延長戦”



日本経営士会一木会「2019年2月」研究会報告

1. 日 時 : 2月7日(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 人生 100 年時代に必要な基本的価値観の転換とこれからのコンサル視点
～ 「平成」の次の 30 年におけるパラダイムシフトに対処する ～
4. 講 師 : 福島 光伸氏 (株)サイエス代表取締役 <講演概要>

<講演概要>

平成の30年が終わり新たな歴史の幕が開く中で、個人としては人生100年時代を迎えています。そのような中、企業や個人の価値観はどのような方向での変化が予測され、またそれを契機としてどのようなコンサルの種が発生するのかを、実際のコンサル展開の経験からお示します。

<講師プロフィール>

獨協大学外国語学部卒業後、大手ジュエリーメーカー勤務。1992 年所属会社の業界内コンサルティング部門設立メンバー・部門責任者。1999 年単一業界にとらわれないコンサルタントを目指しサイエス(コンサルファーム)入社。2007 年代表取締役に就任、幅広い業界の企業コンサルに従事してきた。「年商100億を実現する中堅企業へのサポーター」をコンサルティングの基本スタンスにおき、中小企業が「真の中堅企業」に変革していただくための支援を30年間実行中。著書:100 億円企業を創る とっておきの経営革新術(セルバ出版)。100 億円企業を創る(ダイヤモンド社)。

<出席者> 有馬弘純、大宮政男、島影教子、島村年昭、西満幸、新見健司、平山道雄、福島光伸(講師)、矢島澄子、矢島英夫、山本忠、于天英(YUTIAN YING) 12名 (50音順 敬称略)

【研究会を終えて感想】

「100 億円企業を目指す中堅企業」の経営支援を長年務められた現役コンサルタント社長の貴重な講演であった。伸びつつある平均寿命、実は伸びるのは「引退のステージ」。年代別近未来感として 74 歳の 1945 年生まれは“何とかかなりそうだ”、48 歳の 1971 年生まれは不安、21 歳の 1998 年生まれは不安 x 2 が紹介された。われわれアクティブシニアからできる社会参画の視点、人生 100 年時代における現在 21 歳の青年の人生の 3 ステージ(教育 20 年、仕事 50 年、引退 20 年)に対してシニアの価値観(就社、滅私奉公、社命至上等)は役に立たない。アクティブシニアによる 3 つの視点として企業との接点、グループへの参加、リカレント教育が紹介された。アクティブシニアの開拓すべき仕事の分野としてスキルジョブを 3 分類し、①ロー(シルバーセンター、交通整理、清掃)、②ミドル?、③ハイ(顧問、大学教授)が紹介された。企業の接点として、“高齢者の持つ弱みである「長時間労働」「体力」など働き方

視点で配慮して、強みである「経験」を活かす”ことが一つの切り口であると強調された。リカレント教育の視点は現状について触れ経営士「リカレント教育」、研究会を活用する(別会として)がリカレント教育の変形パターンとして提案された。研究会の別会は目的を社会貢献から、“今日行くが一番、今日

用が一番”の観点から「外出」「頭の訓練・体操」「集い」にシフトするのも一案ではないかと提案された。ただし、告知と集客が課題。“「平成」次の 30 年におけるパラダイムシフトとは”ではモノとコトに注目し、「資本主義」から「価値主義」へと向かいつつあると強調された。＊モノからコトへについて筆者注釈 「ドリルを買う人が欲しいのは「穴」である」 次ページに当日の研究会の様子。

<文責：西満幸>

研究会（2019. 02. 07）



于さんを交え国際的な研究会に



研究会終了後近くの居酒屋で“研究会延長戦”
懇談会参加者 7 名。

日本経営士会一木会「2018年3月」研究会報告

1. 日 時 : 3月1日(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 御社の強みは本当に強みですか？中小企業特化型実践 SWOT 分析
～知行合一を目指す弱小コンサルティング会社の20年目に向けた取り組み～
4. 講 師 : 尾崎 竜彦氏 有限会社マネジメントスタッフ 代表取締役
経営士・宅地建物取引士、
(一社)日本経営士会 倫理委員、選挙管理委員副委員長

<講演概要>

創業・設立して20年目。これからの10年、理念を実現し、社員そしてその家族を守り、バトンタッチするだけの価値のある会社を創ることができるか？これまでを否定し、必要とされるための改革ができるか？また、10年前、「経営コンサルタントとして生き残るために何かの分野でNo. 1となるにはどうすればよいか？」を検討し、その後、それぞれの時代に求められるSWOT分析に関する本を書き、昨年、出版数で日本一になることができた。そこで、過去最高の売上を上げることのできたセミナーの一部お話できればと考えている。

<講師プロフィール> *主な実績と著書(多数あり)は次ページご参照ください。

大手コンサルティング会社の東京本部課長を最後に99年同社を退職。同年、有限会社マネジメントスタッフを設立し代表に就任。「コンサルトソーシング(商標登録済):コンサルティングとアウトソーシングを融合させた造語」を柱に、中小企業の経営企画室、営業部、人事部などの機能となるべく内外の組織を構築している。

<講師プロフィール>

大手コンサルティング会社の東京本部課長を最後に99年同社を退職。同年、有限会社マネジメントスタッフを設立し代表に就任。「コンサルトソーシング(商標登録済):コンサルティングとアウトソーシングを融合させた造語」を柱に、中小企業の経営企画室、営業部、人事部などの機能となるべく内外の組織を構築している。

■ 主な実績

- ◇社団法人日本経営協会 講師
- ◇狭山商工会議所 経営相談員
- ◇株式会社アイデム人と仕事研究所 講師
- ◇株式会社富士ゼロックス総合教育研究所 専任トレーナー
- ◇千葉県職員マネジメント研修講師
- ◇社団法人首都圏産業活性化協会(TAMA協会)コーディネーター
- ◇埼玉県エキスパートサポート事業 登録専門家
- ◇中小企業庁委託事業ミラサポ 登録専門家
- ◇明治大学リバティ・アカデミー 講師
- ◇駿河台大学経済学部 特別講師
- ◇東京国際情報ビジネス専門学校 非常勤講師
- ◇株式会社マーテック 協力講師
- ◇専門家情報サイト[ALL ABOUT] 登録専門家
- ◇中小企業庁「補助金申請サポート」派遣専門家

■ 著書

◇経営承継を成功させる実践 SWOT 分析（マネジメント社） NEW

◇リーダーシップが変わる 9 週間プログラム（マネジメント社）

◇SWOT 分析による経営改善計画書作成マニュアル（マネジメント社）

◇デフレ時代の減収創益経営（マネジメント社）

◇融資渉外ガイド（銀行研修社）

＜出席者＞ 石川誠、石倉憲治、尾崎竜彦、島影教子、田中信一、新見健司、西満幸、平山道雄、福島光伸、矢島澄子、

山本忠、横井三郎（12名） （50音順 敬称略）

【研究会を終えて感想】

経営コンサルタント・ファームを創業してから20年、これからの20年を見据えた実り多い研究会であった。年平均の経営成長を7%、

経営理念や経営方針をまとめた「基本と定石の順守(MSG基本50ヶ条)」は圧巻であった。継続して成功する『継営』、『知行合一』、『三意（熱意・誠意・創意』、『基本動作』決められたことを

SWOT 分析では

＜文責：西満幸＞

＜尾崎竜彦先生＞



＜熱心に拝聴・討議する一木会メンバー＞



日本経営士会一木会「2018年2月」研究会報告

1. 日 時 : 2月1日(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 経営士会在籍 60 年を顧みて ～私が学んだこと、感じたこと～
4. 講 師 : 平山 道雄 氏 平山システム研究所代表、経営士

<講演概要>

20 代後半で企業内経営士として経営士会に入会した。色々な研究会・研修会などに参加し、社内ではなかなか得ることができない未経験分野の最新情報や幅広い知識を得ることができた。同時に、当時の自分の専門的な仕事、経営管理や勉強指針に大いに役立った。経営士会入会により、先輩会員・その後入会された会員方との気兼ねない交流などから幅広い人脈を築くことができた。また、研究会・研修会・各委員会の委員を通じて交流が深まる中から経営士会の今後の方向性を自分なりに考え思っていることを披歴し、ご参加の皆様と意見交換を行いたい。

<講師プロフィール>

機械工学科卒、昭和 28 年昭和飛行機工業(株)入社、昭和 61 年定年退職

(職歴) 占領下：設備設計・修理部品生産進捗業務、民需転換後：設備計画・生産管理・事務合理化・システム設計・電子計算機導入・退職後経営士業務。一般社団法人日本経営士会会員 - 生産部会所属。

<出席者> 島影教子、島村年昭、田中洋子、新見健司、西満幸、原田みどり、平山道雄、矢島澄子、八代譲、横井三郎(10名) (50音順 敬称略)

【研究会を終えて感想】

1957年にサラリーマン時代に入会。月1回の生産部会研究会(17時~20時に昭島より銀座の本部に参加。研究会の成果は工場診断チェックリスト(1967年7月)、生産管理技法の解説(上・下)(1980年、日刊工業新聞社)として発行。社内では生産管理、事務管理、人事管理、電子計算機導入などを担当。企業内経営士として月1回の研究会活動は大変であったが、会員とのつながり、交流などにより最新の経営知識・知恵が得られ、自己研鑽と職務への応用や活用は大いに役立った。

今後への経営士会への期待はIoTによる変革の時代・第四次産業革命時代へ経営士の活躍を期待、部会活動の活発化、部会間の連携強化、経営士資質の向上など。経営士会の発展については出席者の関心が高く、熱心に質疑応答。別会場での懇談会でも引き続き活発な意見交換を行った。 <文責：西満幸>



日本経営士会一木会「2017年7月」研究会報告

1. 日 時 : 7月6日(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 知の化学反応を起こすコミュニケーション手段
～U理論的アプローチについて～
4. 講 師 : 田川 健氏 (株)サイエス コンサルタント

<講演概要>

U理論は、MITのオットー・シャーマー博士を中心に、革新的なリーダー約130人にインタビューした結果生まれたイノベーションを起こす方法についての理論体系です。その方法論は、組織的な諸問題についても適用可能で、対症療法に終わらない本質的な解決をもたらす事ができるとされています。ユニークな点は諸問題に対する「やり方」ではなく「あり方」にフォーカスしている点です。本講演では、U理論的視点から人対人のコミュニケーションの場における問題の発生メカニズムや、問題解決の「あり方」を解説したいと思っています。

<講師プロフィール>

北海道札幌市出身、室蘭工業大学を卒業後、警察業務、書店、ビデオレンタル店、複合カフェ店等を経験、コミュニケーションスキルや店舗運営管理等を習得。企業経営理論やマーケティング論等を学ぶ中で株式会社サイエスに出会い、組織の内部体制にフォーカスしたコンサル活動のアシスタント業務を行っている。

<出席者> 石井政夫、榊原貞夫、島影教子、島村、西満幸、福島光伸、南寛保、横井三郎（8名）

【研究会】



日本経営士会一木会「2017年7月」研究会報告

1. 日 時 : 7月6日(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 知の化学反応を起こすコミュニケーション手段
～U理論的アプローチについて～
4. 講 師 : 田川 健氏 (株)サイエス コンサルタント

<講演概要>

U理論は、MITのオットー・シャーマー博士を中心に、革新的なリーダー約130人にインタビューした結果生まれたイノベーションを起こす方法についての理論体系です。その方法論は、組織的な諸問題についても適用可能で、対症療法に終わらない本質的な解決をもたらす事ができるとされています。ユニークな点は諸問題に対する「やり方」ではなく「あり方」にフォーカスしている点です。本講演では、U理論的視点から人対人のコミュニケーションの場における問題の発生メカニズムや、問題解決の「あり方」を解説したいと思っています。

<講師プロフィール>

北海道札幌市出身、室蘭工業大学を卒業後、警察業務、書店、ビデオレンタル店、複合カフェ店等を経験、コミュニケーションスキルや店舗運営管理等を習得。企業経営理論やマーケティング論等を学ぶ中で株式会社サイエスに出会い、組織の内部体制にフォーカスしたコンサル活動のアシスタント業務を行っている。

<出席者> 石井政夫、榊原貞夫、島影教子、島村、西満幸、福島光伸、南寛保、横井三郎（8名）

【研究会】



日本経営士会一木会「2017年6月」研究会報告

1. 日 時 : 6月1日(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 企業の人事施策、人材開発に見られる新しい流れ
～人事の新たな取組みを知り、これからの経営に活かす～
4. 講 師 : 小笠原 隆夫 氏 ユニティ・サポート代表、B I P (株) 代表取締役、経営士

<講演概要>

「人」という経営資源を扱う上で、人事施策や人材開発といった分野ですべての人に当てはまる共通項を見出すことは難しく、各企業では様々な工夫をし、試行錯誤を繰り返しています。そんな中、近年見られる動きとして、各社各様の取り組みと合わせて、底流には共通した発想が感じられ、そこにはそれなりの時代背景や裏付けがあります。そんな人事の新しい流れを、コンサルティング現場で見られた事例なども補足しながら見ていくことで、これからの企業経営や経営コンサルティングに活かしていただければと思います。

<講師プロフィール>

S I 企業でエンジニア職の後、同社内での人事業務全般とマネジメント職に従事。2007年2月に「ユニティ・サポート」を設立し、同代表。以降、人事制度策定、採用活動支援、人事戦略策定支援など、人事課題の解決・改善に向けたコンサルティングを実施。2012年より「B I P 株式会社」に参画し、2017年2月より同社代表取締役社長。

<出席者>青島利久, 五十嵐昭平, 石川誠, 島影教子, 西満幸, 新見健司, 南寛保, 松尾實, 横井三郎,

山本忠 青木 幸江 (懇談会のみ) (11名)

【研究会】



日本経営士会一木会「2017年5月」研究会報告

1. 日 時 : 5月11日(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 事業承継入門編「いちばん優しい事業承継セミナー」
～今すぐ考えよう！引き継ぐ準備と後継者の心構え・社長交代の支援方法～
4. 講 師 : 内藤 博 氏 中小企業診断士、事業承継センター(株)代表取締役

<講演概要>

1. 「あなた自身の人生観が問われる」 仕事の継がせ方・事業承継に直面する現経営者に必須の
キーポイント

これだけは押さえない、事業承継の最新情報

2. 人生計画の最大の山場！ 「事業承継」時を上手にやり過ごすテクニック

<事例紹介> A社：子息がまだ若いので「ブリッジ社長」を入れた10年計画（運輸業）

B社：病気があり「特急で仕上げる」決算まで6ヶ月の計画書（印刷業）

C社：経営承継円滑化法の活用で大幅な節税と争族防止（パチンコ店）

<講師プロフィール>

モーターマガジン社を50歳で独立、事業承継専門の経営コンサルタントに。全国での事業承継の専門家不足を解消すべく「事業承継士」資格制度を開発、専門家の為のツールも開発。

一般社団法人事業承継協会 代表理事・東京商工会議所 BSD 事業承継専門家・多摩信用金庫事業承継専門家・高千穂大学非常勤講師

【研究会】



日本経営士会一木会「2017年4月」研究会報告

1. 日 時 : 4月6日(木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : ビール苦味成分イソフムロンのアルツハイマー型認知症予防・治療薬への期待

～内閣府もイソフムロンを応援、プロジェクトに採択～

4. 講 師 : 戸部 廣康 氏 経営士、(独)国立高専機構・高知高専名誉教授

<講演概要>

現在、日本のアルツハイマー型認知症患者数（軽度も含む）は約500万人と推定され、年々増加しているが、その予防薬や根本的治療薬は未だ開発されていない。死滅した神経細胞を再生する事は、現在の医学では不可能であり、治療より予防に重点が置かれている。ビール苦味成分イソフムロンによる、アルツハイマー病の根本原因とされる「アミロイドβタンパク」への除去作用が、マウスを使った研究で示された。ヒトにも有効であるか、研究が進められている。イソフムロンは、ホップ成分フムロンが、ビール醸造中に変化した物質である。

<講師プロフィール>

1947年東京生まれ。東京大学農学部卒業。農学博士。民間会社から（財団法人）微生物化学研究所の研究員（出向8年間）。カナダ・カルガリー大学医学部発ガン研究部へ留学（2年間）。ドイツ・ヘキストジャパン（株）創薬研究所主任研究員を経て、（独）国立高専機構・高知高専名誉教授。（一般）日本経営士会・会員

【研究会】



日本経営士会一木会「2017年3月」研究会報告

1. 日 時：3月2日（木）15：00～17：00
2. 会 場：ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題：攻めのGRC ガバナンス・リスク・コンプライアンスとは
～企業価値を高める成長の取組～
4. 講 師：島村 年昭 氏 シマ・ビジネス・デザイン代表、全能連マスター・マネジメント・コンサルタント

<講演概要>

近年世界経済情勢は、政治・経済・社会等多くの面で流動化している。企業の経営環境も国からの“攻めの経営”の為の各種の政策、規制、更に株主等ステークホルダーからの要請等事業環境は厳しくなっている。

そこで今回は、リスク・危機管理の視点から“攻めのGRC”との主題で、“今求められているITガバナンス”更に“今改めてBCMを考える”を副題として、課題対応策を提示します。

<講師プロフィール>

早大政経学部を経て、立大経済学部で政治学・経営学を学び、卒業後日本石油(株)に入社。国際マリンビジネス、宣伝、販売企画業務、特約店販売セールス等を担当。

コンサルタント業界には、1997年に“AZ経営研究所”の研究員を振り出しに、“マックブレイン(株)”の取締役を務めた。2013年独立し現在に至り、八重洲再開発準備組合の理事会の役員としてアドバイザーを務めている。

【研究会】



日本経営士会一木会「2017年2月」研究会報告

1. 日 時 : 2月2日(木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 日本経営士会の現状と課題 ～今期の活動実績報告と来期の課題について～
4. 講 師 : 青木 幸江氏 (株)青木経営労務事務所代表、(一社)日本経営士会会長、
特定社会保険労務士、第一種衛生管理者

<講演概要>

平成28年6月17日開催の第62回定時社員総会にて経営士会の会長に就任。会長就任に当たり①組織の再編成 ②経費の見直し、財政の健全化、透明化 ③ホームページの見直し ④事務所移転に関して ⑤各種規定の見直し ⑥効率的な理事会運営の実施 ⑦年2回の支部長会の実施 ⑧全国の支部活動の支援等と、所信表明し、会の健全化、活性化の為に着実にその活動を実行し展開しております。その実績と今度の課題に付いて皆様のご意見を頂きながら、ご報告と来期の会の運営(収益事業、若手の参画など)の参考にして参ります。

<講師プロフィール>

1952年2月26日東京生まれ。短大卒。東京都に入職。出産と同時に約5年で退職。その後10年の専業主婦を経て翻訳会社で人事労務経理を一人で切り盛り。その後、社会保険労務士の資格を取得し、1年で独立し今年で25年(従業員16名)。現在、上場企業から数人規模の多種多様の会社の「人」に関わる仕事で活躍中。

【研究会】



日本経営士会一木会「2016年12月24日」幹事会

日時：2016年12月24日

場所：アルカディア市ヶ谷（レストランフォッセ）

議題：2017年2月総会・報告会準備

2016年（平成28年）活動結果

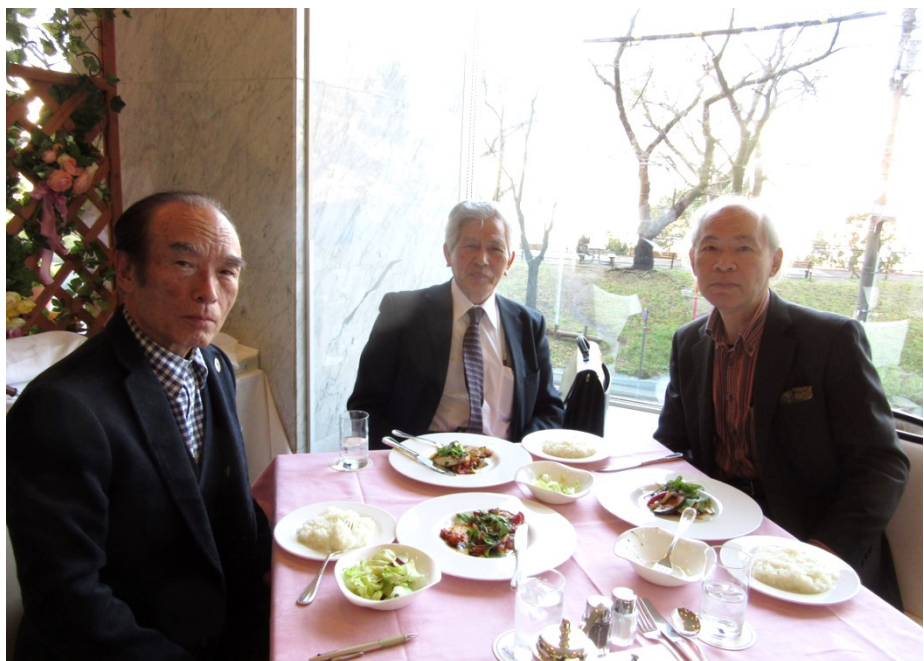
2016年（平成28年）会計報告，会計監査

2017年（平成29年）活動計画

出席者：会長（西満幸）

企画・財務担当幹事（南寛保）

広報担当幹事（新見健司）



一木会 Since 1969

☆ Change Challenge Create

変革 挑戦 創造

☆ 知行合一

夢のある一木会

一木会には夢がある！！

夢なき会はほろびる（ソロモン）

1975年5月一木会採択

日本経営士会一木会「2016 年 12 月」研究会報告

1. 日 時 : 12月7日(水) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 日本の自動車産業のグローバル化
4. 講 師 : 金子 幹雄 氏、元トヨタ自動車製品企画部長、
関東自動車工業(現トヨタ自動車東北)専務取締役生産本部長、監査役

<講演概要>

- 1:日本の自動車産業のグローバル化
- 2:日本が誇る 自動車開発・生産の風土
- 3:グローバル時代の心構え、

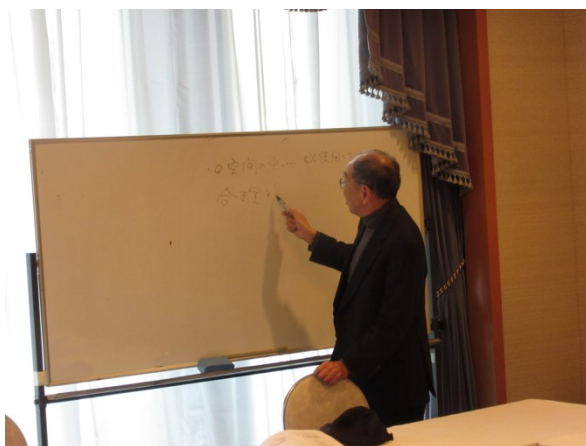
トヨタ自動車のグローバル競争躍進の軌跡, トヨタの開発組織, トヨタ生産方式, 原価カイゼンなどトヨタの開発, 生産の第一人者による非常に参考になる講演内容です。

<講師プロフィール>

1941 年 静岡県生まれ, 1964 年 東京大学工学部卒, トヨタ自動車製品企画部 パブリカ担当主査(部長)

第一企画部長など, 関東自動車工業(現トヨタ自動車東北), 常務開発本部長、専務生産本部長、監査役など

【研究会】



日本経営士会一木会「2016年11月」研究会報告

1. 日 時 : 11月17日(木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : CSR経営/CSV経営で業績向上を目指す
～“経済的責任”と“環境的・社会的責任”の両立を果たす～
4. 講 師 : 鈴木 和男氏、㈱KAZコンサルティング代表取締役社長、日本経営士会東京支部長

<講演概要>

日本経済を取り巻く環境は厳しさを増すばかりで、競争に勝ち残る為に成長戦略や差別化戦略の立案に腐心されている経営者の方々と会う機会が増えています。今回のテーマは「CSR経営/CSV経営で業績向上を目指す！」と題し、このような課題を解決する為、環境経営やCSR経営/CSV経営などを積極的に推進し、コスト削減や従業員のモチベーションアップ、社会貢献、そして事業の拡大・新規事業開拓に成功した実例を経験豊富な講師より分かりやすく話をして頂きます。業種や企業規模を問わず、参考になる講演内容です。

<講師プロフィール>

富士ゼロックス(株)においてSE統括センター長(事業部長)などを歴任。平成16年4月、(株)KAZコンサルティング設立。日本経営士会東京支部長、中国遼寧科技大学客員教授、帝京大学非常勤講師、経産省「MFCA」「省エネ」アドバイザー、文科省「成長分野人材育成事業」アドバイザー、NPO法人日本環境管理監査人協会理事等で活躍中。

【研究会】



日本経営士会一木会「2016年10月」研究会報告

1. 日 時 : 10月5日(水) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 生涯活躍への道
～シニアの起業と稼ぎ方～
4. 講 師 : 青島 利久 氏 あすなろ経営企画代表、 中小企業診断士

<講演概要>

一億総活躍社会の政府案とは全く別視点でのシニアの働き方・稼ぎ方の提案を致します。日立早期退職後14年間の学びと経営コンサルタントとして稼いでいる人の考え方や行動、稼ぐために必要なスキルと人脈につき述べて頂きます。

<目次> 1. 自己紹介～独立の経緯 2. シニアの起業状況 3. 稼ぐ人のものの考え方 4. 稼ぐために必要なスキル 5. 稼ぐために必要な人脈 6. 運勢を味方にする行動 7. 経営者として必要な力量

<講師プロフィール>

1950年生まれ。日立中央研究所での半導体やコンピューターの研究開発22年、日立製作所医療事業部でのヘルスケア事業開発9年の実務経験を活かし、2003年経営コンサルティング(あすなろ経営企画)を設立。中小企業診断士 2003年、1級販売士2006年登録。中小企業の経営力強化・教育研修に注力。公認会計士と連携し事業承継案件にも取り組む。

日本経営士会一木会「2016年9月」研究会報告

1. 日 時 : 9月1日(木) 15:00～17:00 《日本経営士会会員
でなくともご参加は大歓迎致します》 2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷
2階
3. 演 題 : 環境型経営についての取組み
～環境型経営で存在意義を受け入れられ、商材を選ばれる時代～
4. 講 師 : 鈴木 純子 氏 一般社団法人日本リ・ファッション協会代表理事

<講演概要>

日本リ・ファッション協会は、持続可能な循環型社会の実現を目指し2009年に誕生。運営は持続可能なソーシャルビジネスによって支えることを目指し、理事会は企業経営者やコンサルタントで構成。いくつかの転機を経験し、現在の運営スタイルに。大きな転機は2011年の東日本大震災。延べ3万人以上の協力者により継続している活動、活かされている団体となった。未だ経営が軌道に乗ったとは言えないが、環境型経営によって生活者に存在意義を感じて頂き、選ばれることで持続可能な経営に向かっている。今回講演は、これまでとこれからの事例紹介をして頂きます。

<講師プロフィール>

1996年インターネット創世記にITベンチャーとして独立開業。その後、NPO法人の理事やコミュニティカフェの共同オーナー等を兼任。現在、持続可能な社会の実現の為多方面で活動中。「衣育食育住育カフェ主催」。
一般社団法人日本リ・ファッション協会代表理事。

【研究会】



日本経営士会一木会「2016 年 7 月」研究会報告

講師諸般の事情で開催かなわず。

日本経営士会一木会「2016 年 6 月」研究会報告

1. 日 時 : 6 月 2 日 (木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2 階
3. 演 題 : N レストランの創業支援
～繁盛店を目指して～
4. 講 師 : 榊原 貞夫 氏 榊原経営デザイン研究所代表

<講演概要>

N レストランは昨年 6 月に中野で開業しましたが、業績は余り順調に推移していませんでした。開業から 3 ヶ月経った 8 月末に経営診断の依頼を受け、創業の基本に立ち返って抜本的に経営の見直しを行いました。

繁盛店を目指した改革をどのように進めたら良いかを中心に検討した結果をお話頂き、その後参加者とともにこの事例の改革案を論議していきます。

<講師プロフィール>

大学卒業後化学会社に入社、人事・秘書・原料調達・貿易・合成紙ユポの経営等に携わり、平成 12 年に経営コンサルタントとして独立。

独立後は、中野区の経営相談員、中小企業診断士の予備校（T B C）や税務大学校の講師等を経て、現在主に中小企業の経営相談に携わっている。

【講演会の様子】

日本経営士会一木会「2016 年 5 月」研究会報告

1. 日 時 : 5月12日(木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : クライアントをうならせるコンサル展開の視点と展開方法
～20年のコンサル歴から得たコンサルの肝～
4. 講 師 : 福島 光伸氏 (株)サイエス代表取締役

<講演概要>

コンサルとして共通の課題である「クライアントに対して満足頂ける価値を創出、提供していく為の視点、考え方、具体的ツール」を、自身の約20年のコンサル歴から得た経験から紹介。特に、実際にコンサルファームにてコンサルを生業としている実体験からぶつかる問題点や対処してきた事例等も紹介する。

<講師プロフィール>

獨協大学外国語学部卒業後、大手ジュエリーメーカー勤務。1992年所属会社の業界内コンサルティング部門設立メンバー・部門責任者。1999年単一業界にとらわれないコンサルタントを目指しサイエス（コンサルファーム）入社。2007年代表取締役に就任、幅広い業界の企業コンサルに従事。

【研究会】



日本経営士会一木会「2016年4月」研究会報告

1. 日 時 : 4月7日(木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 人事コンサルティングの昔と今、そしてこれから
～四半世紀にわたる人事コンサルタント人生を振り返って～
4. 講 師 : 二宮 孝 氏 (株)パーソネル・ブレイン代表取締役

<講演概要>

人事コンサルティングも時代とともに変化してきました。「答えは現場にあり」をモットーに、四半世紀にわたる実践重視の人事コンサルタント人生を振り返って、あらためて感じていることを下記内容で伝えて頂きます。

1. 私が行っている人事コンサルティング
2. 人事コンサルの昔と今を比較して
3. 困難な事例から振り返る
4. 見えない「心」に焦点を当てる
5. 失敗しない為に心掛けてきたこと
6. 人事制度改革を進めていく為に
7. これからの人事コンサルの行方

<講師プロフィール>

商社及び外資系メーカー人事部、銀行系コンサルティング会社を経て独立。

(株)パーソネル・ブレイン代表取締役、社会保険労務士、産業カウンセラー。

指導実績は、民間(中小から上場企業)、地方自治体等100社(団体)を超える。

著書は、「雇用ボーダーレス時代の最適人事管理マニュアル」(中央経済社)等多数。

【研究会】



日本経営士会一木会「2016年3月」研究会報告

1. 日 時 : 3月3日(木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 新商品・新事業開発による企業成長戦略
～商品・事業開発の進め方と仮説・検証～
4. 講 師 : 米窪 健 氏 元オリンパス株式会社取締役技術開発本部長、元東京都中小企業振興公社ビジネスナビゲーター、現NPO法人コアネット理事

<講演概要>

企業活動においては新商品・新技術・新事業の開発は企業発展のキーであり、経営課題である。この商品は面白い、他社には無い、ニーズにマッチしている等のことから新たな取り組みがスタートする。しかし、新たな取り組みは未知への挑戦でもあり、多くの仮説からスタートしている。商品コンセプトの明確化を含めた商品開発の進め方、新事業開発での仮説検証の進め方について、自分自身が経験した新事業及び内視鏡・顕微鏡開発の事例を紹介し解説する。東京都中小企業振興公社でのビジネスナビゲーターとして交流した中小企業の中で、共感を持った企業も紹介する。

<講師プロフィール>

1944年生まれ、1968年オリンパス光学工業入社。技術屋時代は顕微鏡開発に従事、マネジメント時代で商品・技術開発の目利き力を蓄積、経営の立場では新事業開発・技術開発・血液分析機事業を担当。退社後、東京都中小企業振興公社、岡谷市、北区産業振興課そしてNPO法人コアネット等で中小企業支援・サポートを10年間継続中。

【研究会】



日本経営士会一木会「2016 年 2 月」研究会報告

1. 日 時 : 2月4日(木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 経営士会の現況及び今後について
～経営士会の建て直し戦略～
4. 講 師 : 鶴岡 義明 氏 日本経営士会会長、NPO共生 理事長

<講演概要>

日本経営士会は平成 25 年に一般社団法人になり、3 年目を迎えようとしております。現在、日本経営士会は会員数の減少などいろいろな課題を抱えております。何故このような状態になったか、またこの危機をどのように乗り切り、今後経営士ブランドの再構築をするなど、新たな経営士会を再生して行くためには何をしたらよいか、今やらなければならないこと、今後やるべきことなどを提案します。

日本経営士会が隆盛になるためには、本部と会員の協力なくしては出来ないことを認識して頂き、最後に参加者からの本部への意見・提案を拝聴します。

<講師プロフィール>

昭和 44 年中央大学を卒業後、千葉県習志野市役所に入所し、以後定年迄、地方公営企業（ガス・水道・宅地造成・国民宿舎事業・車両整備事業）で主に企画部門・経理部門に従事する。経営士会に昭和 62 年に入会し、北関東支部副支部長・千葉支部長・本部常任理事・専務理事・副会長を経て平成 27 年 6 月に会長に就任。（公社）全日本能率連盟 理事、NPO共生 理事長。

【研究会】



日本経営士会一木会「2015 年 5 月」研究会報告

1. 日 時 : 5 月 14 日 (木) 15 : 00～17 : 00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷
3. 演 題 : 支援型コンサルタントの戦略と意識改革 ～個と組織の持つ潜在能力の掘り起こし支援～
4. 講師 : 大野 信行氏 大野経営システム研究所代表、産業カウンセラー、経営士

<講演概要と感想>

中小企業はグローバル化、事業再構築、事業承継など、さまざまな企業課題に直面している。経営コンサルタントの役割は、「経営者など個人や中小企業組織が持つ潜在能力を掘り起こして、これを創造性開発につなげ、経営を継続・発展させる」ことにある。経営コンサルタントは、「支援型コンサルタント」として顧客を取り巻く外部環境や内部環境など幅広い観点から適確な経営分析を行い、経営の再構築や成長戦略の立案・実行など有効な経営支援を展開することが重要である。

経営コンサルタントの役割は顧客が潜在的に有している強みや弱みなどに対する「気づき」を促し、それを組織的に最大限に有効活用することにより経営を継続・発展させることにある。企業に「気づき」を促すための経営コンサルタントの資質は対話力、感性・知性（感覚・思考・感情・意図・行為）、経営計画を立案・実行・達成するためのコーディネート力である。

支援型経営コンサルタントの人間力は、基礎力として一般的な人間力（人間性、生活習慣）、社会人の人間力（基礎学力、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）、専門知識）、コンサルタントの人間力（基本的な人間力、経営行動）、コンサルタントの問題解決力の 4 段階で表される。

<講師プロフィール> 神奈川県職員（技術吏員）として職業能力開発の企画・指導担当。その後、企業の人事労務管理、キャリア開発業務を歴任。大野経営システム研究所を設立（1999）。人事労務・能力開発コンサルタント・社員相談室カウンセラー、社員研修講師及び高齢者雇用アドバイザーとして支援活動中。産業カウンセラー（1997 年）、経営士（2003 年）

<参加者(敬称略)>大野信行、菅田聡、榊原貞夫、島村年昭、島影教子、東野耕一郎、永井守、西満幸、南寛保、矢島澄子、山下幹子、横井三郎、計 12 名（講師含む）

<経営士 CPD> 「CPD の区分と課題項目」 **B2** 「CDP の実施形態」 **1 (2)**
「CPD ポイント」 内容（120 文字以内）
などについて知見を得た。

日本経営士会一木会

<会長>西満幸

<企画・財務>南寛保

<広報>新見



日本経営士会一木会「2015 年4月研究会報告」

1. 日時：4月2日(木) 15:00～17:00 2. 会場：ホテル グランドヒル市ヶ谷

3. 演題：中小企業の中国・ASEAN進出の課題と対応 ～失敗しないための生産拠点とモノづくり～

4. 講師：山本 忠氏 マネジメント・コンサルタント代表、経営士

<講演概要と感想>

まず中国の市場動向として「新常态改革」、「製造大国」から「製造強国」10カ年計画、インフラ輸出強化、1月から始まった環境保護法などが報告された。中国への企業進出とリスクではチャイナリスクとして人件費高騰、人民元切り上げ、代金回収、現地資材の安全性と品質、環境、変わる法制度、いろいろな法制度の不透明性など。ASEAN経済共同体の発足を控え、我が国の中堅・中小企業がこれらの地域にこれまで以上に市場展開を図りたい希望であり、またこの地域への設備投資は中国への投資が減少する一方でタイ、ベトナム、インドネシアなどASEAN諸国への投資が50%以上に拡大している。

中小企業の現地法人が直面している事業問題・リスクでは人件費高騰、為替、人材の確保・育成・労務管理、法制度や規制の複雑さ・不正確さが指摘され、販路開拓の困難、コスト上昇、品質管理の困難、現地パートナーとのトラブルなどから撤退・移転を選択するケースが多くある。

講師の5年間にわたる中国子会社の経営の経験から、中国に進出する製造業のメリットがあるのは中国国内に最終顧客が存在する、または日本の進出企業を顧客にできる場合に限定され、新たな販路開拓を求めて進出するのはリスクがある。チャイナリスクとしては「人治」「法治」、コピー製品、技術者・作業員のイチから教育・育成、労働争議の問題、撤退は困難、現地日本企業とのネットワークの構築などが指摘。中国のモノ作りでは語学、労働流動性、停電、調達品の品質、日本等からの調達品の税関審査遅れなどが指摘された。

最後にアジア地域に進出する製造業が失敗しないためのポイントとして、①進出の目的は明確か、②市場調査は十分か、経営資源は、③製品やサービスは十分競争力があるか、④進出の具体的スケジュールは十分か、⑤強い意志と全社意思などが指摘された。また有効な進出形態の選定、政治・経済・文化・技術・人材・資金・マーケティング・知財など外部内部環境の把握、適切なビジネスパートナー、撤退計画を含めた計画の必要性が指摘された。最後に、事業管理上のポイントとして政府関係者との友好関係樹立、現地キーマンの採用と管理職育成、賃金上昇と生産性向上、資材調達と税関対応、夏季停電対策、会計監査対応、知財保護、品質や環境問題対応のための国際規格の取得は有効、進出に当たり中小基盤整備機構やJETROの支援機関、現地日本人会の活用が大切であることが指摘された。

中小企業の中国・東南アジア進出を中心に、中国での実体験を踏まえた現状認識とアジア地域に進出する製造業が失敗しないためのポイントは適確であり、経営士として大変ためになる講話であった。(文責:西満幸)

<講師プロフィール> 電子機器メーカーで航空・宇宙、産業機械、自動車関連の電子部品・製品の開発・生産を主体に事業統括。子会社の役員及び兼務で董事長として、5年間、中国の子会社(生産工場)を統括。現在、中小企業の経営改革支援と環境関連の指導・支援などに活躍中。

<参加者(敬称略)> 青木幸江、井上紘、石井政夫、菅田聡、東野耕一郎、永井守、西満幸、新見健司、南寛保、山下幹子、八代譲、山本忠、横井三郎、計14名(講師含む)



<経営士 CPD> 「CPDの区分と課題項目」 **B2** 「CDPの実施形態」 **1 (2)**
「CPDポイント」 **2** 内容(120文字以内)

中小企業の中国・ASEAN進出の課題と対応(失敗しないための生産拠点とモノづくり)として、中国やASEANの動向、進出のポイント、進出する製造業が失敗しないための方策、事業計画の策定方法、運営上のポイントなどについて知見を得た。



日本経営士会一木会「2015年3月研究会報告」

1. 日 時 : 3月5日(木) 15:00～17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : マーケティングでイノベーション ～地方創生での経営士の役割と能力～
4. 講 師 : 畑 和浩氏 経営革新 IT コンサルファーム代表、
日本経営士会神奈川経営支援センター長、経営士

<講演概要と感想>

第三の矢である成長戦略の核心となるアベノミックスの地方創生が動き出しました。法案の成立と予算も計上され、石破大臣の腕の見せ所となります。我々経営士も地方創生の成果を上げるために一役買わなければなりません。地方創生に“知恵と実行”で貢献するために経営士自身のイノベーションが問われることになります。講師は3年前から「マーケティングでイノベーション」をスローガンに中小企業の活性化を訴えており、経営士にも地方創生の成果を上げるために、このスローガンを十分に理解することが重要であると講師は指摘しました。

具体的には、アベノミックスの成長戦略における地方創生のポイント、外部環境から見た中小企業・小規模企業による新市場形成・経営課題が指摘された。地方創生事業の例として農業・観光など5産業と分野を超えた連携による「地産外商」などからなる高知県産業振興計画が紹介された。マーケティングは市場と顧客創造を目的(①)として、マーケティング戦略による成長戦略・競争戦略の展開(②)、マーケティング活動の要素である具体的な4Pの展開(③)の3つを明確に区分してとらえることが重要と強調。企業の目的は顧客創造である。顧客のニーズを探り当てるマーケティングにより顧客が望む新しい価値創造(イノベーション)から新製品・新事業創造(顧客創造)が生まれる。事例として小規模ベネクス社の床ずれマット(失敗)からリカバリーウェア(成功)への事例が紹介されました。「マーケティングとイノベーションで経営革新」では、①イノベーション経営(顧客本位の経営に変える)、②「マーケティング(顧客目線で)、③テクニカル・イノベーション(技術力をどう高めるか)、④マーケティング活動(売れる仕組みづくり)が紹介された。イノベーションの発想のマトリックスチャート(技術革新の領域・Y軸ー現状の製品技術・X軸)から新規事業・製品への展開による顧客創造プロセスが紹介された。経営士は3K(関心、感動、感謝)で活動することが重要!

<講師プロフィール>

大手総合商社に35年勤務。2003年に一般社団法人日本経営士会に入会。「経営革新 IT コンサルファーム」を設立。「販路開拓マーケティング研究会」代表。「マーケティングとイノベーション思考で経営革新」をスローガンに中小企業の経営革新を支援している。日本経営士会神奈川経営支援センター長として中小企業の経営支援などに活躍中。

<参加者(敬称略)>

井上紘、市川健治郎、石井政夫、榊原貞夫、島影教子、鈴木和男、西満幸、新見健司、畑和浩、平山道雄、南寛保、矢島澄子、矢島隆志、山下幹子、山本忠、横井三郎、計16名(講師含む)

<経営士 CPD の内容(120文字以内)>

マーケティングの目的は市場の創造・顧客の創造である。このため顧客ニーズを探り当て、顧客が望む新しい価値素創造により新製品・新事業創造につなげる。イノベーション発想マトリックスの活用や地方創生の具現化などについて知見を得た。





日本経営士会一木会「2015 年2月研究

1. 日 時 : 2月5日(木) 15:00~17:00
2. 会 場 : ホテル グランドヒル市ヶ谷 2階
3. 演 題 : 経営の面から見たトヨタウェイ VS ホンダウェイの違い
～企業の哲学の違いからくる経営戦略の違い～
4. 講 師 : 森田 喜芳氏 Morita&AssOciates,LLC 取締役社長 、経営士

<講演概要>

- 我国の経済を最大牽引する自動車業界に於いて、トヨタとホンダは両雄だ。舞台を世界に於いて戦い抜くには息の抜けない経営戦略・戦術と社員を統率することが必定。素因はトヨタの社是からひも解く。一方ホンダの動脈は二輪から四輪への市場を読み徹した、独立独歩のホンダイズムにある。世界の市場で果敢に戦うそれぞれの姿は、我々コンサルタントの今一番に欲しい滋養であり、おおいに参考となる。講師はそれを解き明かす。

<講師プロフィール>

1941年東京生まれ。本田技研工業(株) 1958~1994 (1980 年~米国、オハイオ州駐在25年間)海外に自動車部品メーカーの設立。●菊池プレス工業(株)(現株)ジーテクト、ジャスダック上場)1996~2002 (役員待遇営業本部長)、マレーシアにT/C 契約で営業拡大。ブラジルへ4輪工場設立。●デルファイ・オートモーティブ(米国、ミシガン州) 2002~2007 (戦略アドバイザー) 北米、韓国、中国の部品サプライヤーに経営戦略、リーン MFG、生産性向上の現場指導を行う。Morita & Associates, LLC(米国、ミシガン州)をU.S.A.に設立 2007~2013、北米の部品メーカーに経営、営業、生産性向上の戦略指導。●モリタ・アソシエイツ(東京都)設立。2014 年1月~現在。日系商社の M&A (US 企業診断)。中国温州市のサプライヤー診断実施。

<参加者(敬称略)>

菅田聡、榊原貞夫、島村年昭、島影教子、東野耕一郎、西満幸、新見健司、福島光伸、南寛保、他 1 名、計 11 名(講師含む)

<講演内容・感想>

講師は GM やホンダなど自動車関連業界で長らく活躍されていた。講演の内容は社是、トヨタ・ホンダの歴史、日本自動車業界の歩み、現在の自動車業界、トヨタの用語、ホンダの用語、具体的なトヨタ、ホンダの違いなどであった。トヨタ用語では「者に聞くな、物に聞け」、「横展しよう」、ホンダ用語では「ワイガヤ(人材活用)」、大部屋役員室(組織戦略)、「バッドニュースファースト(生産管理)」など興味深いものがあつた。体質比較ではトヨタは金太郎飴、ホンダはミミズということである。研究会当日の日本経済新聞朝刊トップに「トヨタ、最高益 2.7 兆円、円安や構造改革寄与」の記事もあり、またホンダはエアバッグ問題で苦戦していることもあり、興味深い講演であった。

経営士 CPD 記録用

課題(記号)	形態(記号)	CPD ポイント	内容
B1	1 (2)	2	(120 文字以内)

日本の自動車業界の成立過程と歩み、自動車業界の生産・販売・輸出の状況、電機業界との経営比較、我が国の産業を牽引しているトヨタとホンダの企業哲学からくる経営戦略の違い、社是、用語、体質比較、人材活用、組織の違いなどについて具体的な知見を得た。





一木会会報

(社) 日本経営士会 一木会発行

2012 年第 8 号

8 月 研究会講演内容

鈴木伸一氏による「通信販売の成長とIT展開戦略」と題して、自らの実践経験をベースに取組んで来たことについての講演であった(株エフネット執行役員・日本経営士会千葉支部副支部長)。

不況下でも成長を続けている通信販売業界。その現状と仕組みについて。特に現代ではなくてはならないインターネットを利用したマーケティングについて、理論的側面について解説。従来のマーケティング理論である AIDMA は、インターネットマーケティングの時代では AISAS や SIPS 等、よりインターネットに即したものに進化して来ている。更に、ツイッター、フェイスブックに代表されるエスエヌエスやブログ等を利用したマーケティングであるトライバルマーケティングが注目を集めてきた。最後に通信販売の海外進出や将来についての考察。経営者および我々コンサルには必見の内容であった。(8月2日)



鈴木伸一 氏 略歴

- * 日本経営士会千葉支部副支部長
- * (株)エフネット執行役員
- * ITソリューションコンサルタント
- * 企業内実践的 S E 教育

第 46 回経営士・全国研究会議埼玉大会 10 月開催のお知らせ

既に最新の M & C 誌にて報告の通り、「経営士全国研究会議」は埼玉県熊谷市にて 10 月 13 (土) ~ 14 日 (日) に亘り開催される。日頃の経営士の活動内容と、地域企業の活動を反映したビジネス・イノベーション・アワードが同時に執り行われ、経営士会最大の催しである。経営士の方々の多数の出席を期待したい。

成長基盤強化支援の資金供給」制度

日銀は「成長基盤強化支援の資金供給」制度で、新規に 14 億 6600 万円を供給すると発表した。中小企業支援のため今年新たに導入された 100 万円以上 1000 万円未満の小口融資の第 2 回目。9 月 6 日に融資を実施する。6 月の初回融資は 30 億円で、貸出枠 (5000 億円) に対して少額にとどまっている。

今後のスケジュール

(場所: ホテルグランドヒル市ヶ谷、時間: 15:00 ~ 17:00)

9 月 6 日 (木): 青木幸江氏「人事労務管理の課題と企業の経営改善」

編集後記

コミュニティビジネスと経営士

コミュニティビジネスが全国的な広がりを見せている。時代と共に変質しながら現代の要求に、形を変えて生き続けた。超高齢化・少子化社会を向え、地域コミュニティの活性化は我々経営士として新たな「創業、雇用の創出、働きがい、生きがい」の役割を指導的な立場から、いかにビジネス化するかを考える必要がある。継続性は完全なボランティアではなくビジネスの観点から生れるべき。

健康のためなら死ねる

本当に健康のために死んでしまった元も子もない。これはなかなか気の毒なジョークだ。一方消費税が上がる。社会保障制度は確かにこのままいけば破綻するのだろう。しかし税金を上げて、

10月4日（木）：高橋興夫氏「グローバルビジネスと日本（人）」

済状態が急速に冷え込んでしまっている。これは、
効果だ。保障を手厚くするために今の状態を
壊してしまっては意味がない。

（文責 新見）



一木会会報

(社) 日本経営士会 一木会発行

2012 年第 7 号



7 月 研究会講演内容

近藤安弘氏(山梨経営支援センター長・経営士)による、「経営支援の視点～山梨経営支援センターの取組み～」の講演であった。

常に視点の先は苦勞されている中小企業の経営者にあり、我々コンサルタントの「現場力」は、その人間力、思考力および実践力にあると説く。アクションプログラムに則り、経営計画の枠組みを指導すると共に、財務分析の重要性と営業推進のノウハウを解説。

既成概念を取り払った着眼点は、数年来赤字体質企業を経常利益1億円へ改善した経営支援実績についてはさすがである。

近年の東日本大震災の影響を受け、瀕死状態であった企業再生などは時期を得て参考になった。

特に、山梨経営支援センターの活性化状況、会員増強策などの紹介があり、他の経営士会支部、経営士に大いに参考となる内容であった。

(7月5日開催)



近藤 安弘氏 略歴

- * 近藤経営コンサルタント事務所 表取締役 (経営士)
- * 日本経営士会南関東支部副支部長
- * 山梨経営支援センター長
- * 山梨県立人材開発センター講師
- * 松下電器産業(株)生産技術本部勤務

第46回経営士全国研究会議 10月開催のお知らせ

既に最新のM&C誌にて報告の通り、「経営士全国研究会議」は埼玉県熊谷市にて10月13～14日に亘り開催される。日頃の経営士の活動内容と、地域企業の活動を反映したビジネス・イノベーション・アワードが同時に執り行われ、経営士会最大の催しである。

経営士の方々の多数の出席を期待したい。

第38期経営士養成講座10月開講のご案内

36年に及ぶ本講座は経営コンサルタントおよび企業経営に携わる人材の養成機関として広く知られている。実践的なプログラムを、身近に居られる志の高い方々にお誘いいただきたい。(本部開催)

研修期間:10月21日～12月1日、計11日間

場所:ホテル アジア会館(赤坂)、諸費用:200,000 円

今後のスケジュール

(場所:ホテルグランドヒル市ヶ谷、時間:15:00～17:00)

編集後記

大学の地域貢献および支援

文部科学省は25年度より雇用創出や人材育成など地域が抱える課題の解決に、大学への助成する「セクター・オブ・コミュニティ制度」で対応することとなった。

中小企業、救済進まず、震災500

債権買い取り機構への相談件数1万1千件のうち、実際に買い取りが決まったのは27件で1.6%に過ぎない。

一木会のイノベーションについて

一木会の活動は発足以来43年経つ。その間、世界のグローバル化と

8月2日(木): 鈴木伸一氏「通信販売の成長と戦略マーケティング理論」

9月6日(木): 青木幸江氏「人事・労務管理の課題と経営改善」

一木会ホームページアドレス <http://ichimokukai.la.coocan.jp/>

業社会の急激な変革がクリエイティブな匂いを嗅ぎ分けようとしてい
一木会はそのフォーカスを捉え
(文責 新見)



一木会会報

(社) 日本経営士会 一木会発行

2012 年第 6 号



6 月 研究会講演内容

「自然とともに生き、世のため人のためとなる」を自身の人生の信条とされている森裕子経営士が「中小企業の新たな顧客開拓に有効な環境・社会貢献型経営とは」というテーマで講演を行なった。大義の CSR は企業としての基本となる責任(法の遵守、誠実な製品・サービス、収益と株主配当、雇用創出、納税等)であり、近年の外部環境の変化により、社会的責任が拡大傾向にある。その取組により**持続可能な信頼できる経営、他社との差別化とブランド力の構築**ができる。さらに、**リスクマネジメントとしての視点**を企業として獲得出来、**企業を取り巻く様々なステークホルダーの声は社会の利害を反映している**ことから、実はそれは**世の中のニーズである**と感ずるべきだと力説された。

一方日本経営士会は「環境社会創出プロジェクト」を立ち上げ、最近「コンパクトエコシステム CES」が経済性と提供性の点でも中小企業向けとしての評価が高い。公的(行政)取引先などで CES は必要十分な「**環境保全レポート**」が発行されていて、暗黙知として理解され、取引拡大に繋がられる。経営力アップに欠かせないツールと言えよう。(6月8日(金)開催)



当日セミナーの様子

森 裕子氏 略歴

- * (有) アイルインターナショナル
執行役員/事業開発
- * (財) 日本生産性本部コンサルティング部コンサルタント・ビジネス研修講師
- * (社) 日本経営士会経営士

日本経営士会第 58 回通常総会開催結果についての報告

平成 24 年度の総会が 6 月 14 日(木) 弘済会館にて開催された。会員総数 1128 名、委任状を含む出席者 917 名にて総会成立。新定款は出席者を含む賛成多数で特別決議として可決された。今期および来期の本部役員も新に承認され、新会長としては佐藤敬夫氏が再任された。今後は内閣府と最終調整、一般社団法人への移行手続きに入り、来春 4 月に新生経営士会の復活を目指す。

中小企業白書 2012 年版の要点について

「試練を乗り越えて前進する中小企業」を標榜のもとに企業経営

- * 東北地方の復興の牽引に期待される中小企業の役目
- * 国内事業を活かし、海外需要を取り込む中小企業
- * 社会環境の変化に対応する女性の本格事業活動

編集後記

経産省は中小企業の全業種を対象に金融機関による融資を信用保証会社が **100%** 保証する「緊急保証制度」を今期中に廃止する方向との言質。兆円が焦付き、これ以上の国民負担を防ぐ意味もある。尚、**80%** の一般の信用保証制度は引続き残る。残念な想定内! ?

日本はガラパゴス諸島ではない、しかし世界の中ではガラパゴス化へ

* 中小企業の技術・経営を支える取組、ものづくり人材の育成

今後のスケジュール（場所：ホテルグランドヒル市ヶ谷、13：00～15：00）

7月5日(木): 近藤安弘氏「経営支援の視点・山梨経支センターの取組み」

8月2日(木):鈴木伸一氏「通信販売の成長と戦略マーケティング理論」

り！！！！何か変！ 文責・新見

一本会ホームページアドレス

<http://ichimokukai.la.coocan.>



一木会会報

(社) 日本経営士会 一木会発行

2012 年第 5 号



5 月 研究会発表内容

今日は企業が抱える課題の一つに「差別化の困難さ」を示すものとしての「コモディティ」の点について、芝浦工大大学院教授の高中公男氏が講演。

コモディティ化とは、一般的でなかったものが、「日用品」のようになること、市場に流通している商品がメーカーごとの個性を失い、消費者は何処のメーカーの品を購入しても大差ない状態になることを意味するもの。

コモディティ化は、価格競争を強める効果を有するものであり、ビジネスを考える上で、重要な要因である。近年のデフレ傾向も、価格競争を助長し、企業収益を圧迫する要因となっている以上、企業戦略の中に積極的にコモディティ化を位置付ける必要がある。それにはあくまでも顧客との関係で捉えた「顧客価値」視点が必要で、製品とか市場の規格・仕様、モジュール化、技術の円熟化、基準・法制度などで左右される。

一方企業はコモディティ化回避のために、付加価値付与による多機能化、ブランド化、差別化を図ってきた。

企業にとってはこの二極の選択は常に重要な課題となる。



当日セミナーの様子

高中公男氏

略歴

- * 芝浦工業大学大学院教授（工学マネジメント研究科）
- * 電気学会自動車パワーエレクトロニクス調査専門委員会
- * 水素燃料電池将来技術委員

日本経営士会第 58 回通常総会について（再度のお知らせ！）

平成 24 年度の総会が 6 月 14 日（木）弘済会館（麹町）にて行います。

直接ご出席いただくか若しくは委任状にてご参加されるようお願いいたします。詳細については本部より送付された総会資料に予め目を通しておいってください。

景気対応緊急保障の現状について

政府は現在、「景気対応緊急保証」を継続中なのだが、実態は。

- * 金融機関の保証債務残高 34 兆 4489 億円代位弁済額 7541 億円（3284 千件、2 月末）
- * 全国保証協会の言う代弁済額は 646 億円。この差額が課題。

編集後記

わが国内外の日常で目にする経済および世相のニュースは渦巻く潮流の中にいるように激しい。金八先生はダンボールのなかにひとつの腐ったみかんがあるだけで、ダンボールのなかのすべてのみかんが腐ってしまう」と言っていた。例えば最近の外ではギリシャ問題、内では生活保護の問題を指しているように聞こえてくる。良寛の句に次のような一句がある。

今後のスケジュール(場所:ホテルグランドヒル市ヶ谷 2F 鼓の間 JR3分)

6月8日(金):森裕子氏「中小企業の環境・社会貢献型経営と顧客開拓」

7月5日(木):近藤安弘氏「経営支援の視点・山梨経支センターの取組み」

(社)日本経営士会・一木会担当幹事です よろしくお願ひします

(会長)西満幸 (企画)南寛保 (財務)高橋博道 (広報)新見健司

HP: <http://ichimokukai.la.coocan.jp/>

「散る桜 残る桜も 散る桜」
今、国の舵取りの情けなさ、大企業
小企業も大変つらいのだ。

何か変! 文責新見



一木会会報

(社) 日本経営士会 一木会発行

2012 年第 4 号



4 月 研究会発表内容

市川健治郎氏(経営士)は中小企業の適切な**財務諸表の把握**と**資金管理体制**の確立が急務として、最近の大企業の不祥事の事例を見ながらリスク管理の必要性和対策を講演。

まず信頼し得る**財務諸表**に基づく、**財務計画**、**財務統制**があるが、如何に**資金管理**を課題なく運用するかに掛かっている。また中小企業としても**会計基準**があり、基本とするものであり、その内容は信頼されなければならない。不鮮明な会計処理は金融機関の信頼を得られないばかりか、企業としての体質に過大な脆弱性が生じる。

昨今のオリンパスを初めとする大企業による不正会計には **9 通りのパターン**がある。それぞれに**二重責任**の責務が果たされなく、倫理観の欠如が**経営と監査**を放棄する事態となり株主と消費者および取引先に多大な影響を及ぼすこととなる。

中小企業は組織の機能性からもシンプルであるがため危険な罠がひそむ取引に陥りやすく、**リスク管理**の上からも経営者の判断は常に**会計ルール**に照らし合わせた視点であるべきと、我々経営士はコンサル指導しなければならない。



当日セミナーの様子

市川健治郎氏 略歴

総合商社在籍当時からの実践的な**リスク管理**関係の課題解決等に
るい。

(有)ケイアイ・クリフォート代表
元伊藤忠商事財務部在籍

中小企業庁長官・鈴木正徳氏の中小企業政策について

5600 億円の二重ローン債権の約 5 割をグループ補助金でカバー、また中小企業金融円滑化法の 13 年 3 月末までの延長策。しかし円滑化法の支援でも経営改善は進んでいない。経営力の強化が課題で、中小会計要領による会計ルールの整備強化、中小企業経営力強化支援法案・小規模企業政策の見直し(日本の企業の約 9 割占)を本年度の政策位置付けとする。

日本経営士会第 58 回通常総会について

24 年度の総会が 6 月 14 日(木)弘済会館(麹町)にて行われます。**定款改正議案**を含む今回は非常に大事な総会です。ご出席若しくは委任状でご参加されるようお願いいたします。追って本部より詳細のご案内があります。

今後のスケジュール(場所:ホテルグランドヒル市ヶ谷 2F 鼓の間 JR 3 分)

編集後記

* 国の**平成 24 年度予算案**は中小企業対策費として 3356 億円を計上、年度に比し大幅な増額。また**第 4 補正予算**も成立、中小企業金融支援に 7413 億円。二重債務、円高、夕
洪水対策などが主。

* **兆し**

世界でジャパンマネーが席捲して
た時は、日本はバッシング(bashing)
される対象だった。今やその存在

5月9日（水）：高中公男氏「コモディティ化の進展と企業戦略」

6月8日（金）：森裕子氏「中小企業の環境・社会貢献型経営と顧客開拓」

（社）日本経営士会・一木会担当幹事です よろしくお願ひします

（会長）西満幸 （企画）南寛保 （財務）高橋博道 （広報）新見健司 HP：<http://ichimokukai.1a.coocan.jp>

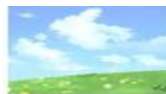
小さくなり、パッシング（passing）
されるのみだ。これはいかん。何
変！



一木会会報

(社) 日本経営士会 一木会発行

2012 年第 3 号



3 月 研究会発表内容

鈴木栄治氏（経営士・販路コーディネータ・セールスステップ 1 級）による「**企業支援コンサルから見た経営者の使命と役割**」と「**どのような経営者なら意欲と業績が向上するか**」と題して専門家の視線から一木会研究会講演会を 3 月 1 日、グランドヒル市ヶ谷・鼓の間で開催しました。

日本を取巻く構造的変化は想像以上に大きく、外も内も中小企業に於いては未曾有で経験の無い側面に接している。中小企業の生き残りに経営者の英断が必要と強調。

経営者とコンサルとが対峙したとき①ワンマン経営者の 6 つの落とし穴、②経営者に問われる 8 つの企業力、③気をつけたい！ 5 つの戒語、④コンサルで留意する 8 つのポイント、⑤風通しの良い職場・GNN 社長とは？等々で対話することは、コンサルとしての必要で重要な役割である。

一方国内では**日本型成熟社会の実情と背景**があり、**消費動向と社会変化から見える**明日の日本はグローバルな観点から**アジア市場が日本経済を支える**と言えるだろう。

今般、中小企業に求められている課題は如何なるものか？大不況時に大きな変化と革新企業の姿勢が強く問われていると鈴木氏は講演。



当日セミナーの様子

鈴木栄治氏 略歴

売り買い両面に精通する実践コンサルタントとして 100 社以上の企業支援と全国に亘る講演で活躍中。

人材育成にも力点を置いている。

* (株)システムプランニング社長

* 日本経営士会会員

女性経営士の会の誕生について

日本経営士会内に「**女性経営士の会**」通称 NJK が設立されました。現在本会に女性会員は 80 名在籍しています。日本経営士会 63 年の歴史上初めての快挙ともいえます。経営士のなでしこパワー炸裂でしょう。

青木会長は「人のお役に立った活躍と収益が上げられる会を望みます」と所感を語っています。役員の方々は次の各会員に決まりました。

会長：青木幸江、副会長：石垣悦子、理事：土橋留美子、久米行子、事務局長：森裕子、監査：臼倉恵美子、茂木三枝。今後の活躍に期待し、男性経営士の方々のご協力もよろしくお願いします。

今後のスケジュール(場所:ホテルグランドヒル市ヶ谷 2F 鼓の間 JR3 分)

編集後記

* **中小機構**は 3 月、被災事業者の重債務問題に対応する「千葉産業復興機構」を設立し、地元金融機関との共同出資で活動に入った。

* **兆し**

3 月シャープは台湾の鴻海精密工業から 669 億円になる第三者割当増資を発表した。

4月5日(木):市川健治郎氏「企業に於ける信頼しうる財務諸表とリスク管理」

5月9日(水):高中公男氏「コモディティ化の進展と企業戦略」

(社)日本経営士会・一木会担当幹事です よろしく申し上げます

(会長)西満幸 (企画)南寛保 (財務)高橋博道 (広報)新見健司

を実施、シャープの液晶事業の不振による。お前もか！ ソニー、三洋(ハイアール)同様に日本の大手が何か変！



一木会会報

(社) 日本経営士会 一木会発行

2012 年第 2 号



2 月 研究会発表内容

2 月の一木会・研究会は 2 日（木）にグランドヒルで開催しました。佐藤富夫氏による「海外進出とノウハウ/ベトナムの現状」と「私のコンサルタントとしての流儀および顧客開拓の法則」と題して自身の経験を絡めた考察内容の講話でした。

国内の中小企業がアジアの新興国へ進出することは単なるコスト削減のみならず新たな市場開拓として熱い視線を投げかける傾向があります。その中でベトナムは社会主義共和国でありながら 1986 年にドイモイ政策により急速な成長を遂げている。GDP5.9%（2011 年）成長はチャイナプラスワンとしての魅力ある役割を担う国だ。中小企業のベトナム進出は魅力とリスクが混在しているのも確かだ。行政を含めリスクの最小化、課題の解決方法は経営士としても大いに参考になる内容だった。ベトナムを拠点にドメスティックな市場開拓はもとより「第三国への輸出」に利用できるメリットは大きい。中小企業にとって今後も最も注目する、期待の大きい国・市場と言える。経験に即した収穫の多い内容でした。



当日セミナーの様子

佐藤富夫氏 略歴

佐藤氏はホーチミン市にて実に 11 年間の企業経営の経験をお持ちです。GMC コンサルタント代表、弁護士法人フェニックス顧問、日本経営士会常務理事（南関東支部）

会報に寄せられたご意見

会報を読まれた方々よりうれしいご意見が多数まいりました。ご紹介します。

＊ 一木会の創刊号をお送り頂き有難うございました。

このような会報を発刊し広く皆様に PR していくことは、会員や読者の投稿や意見なども載せて、参画意識を醸成しては如何でしょうか。

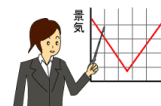
新年早々、新しい一步を踏み出しましたね。

＊ 大変手間のかかるお仕事でしょうが、「反響なき価値ある仕事」と思っています。

「反響なき」とは、この会報に対してほとんどノーコメントでしょうが、この会報によりつながっていく意味は非常に大きいという意味です。

今後のスケジュール（場所：ホテルグランドヒル市ヶ谷 2F 鼓の間 JR3 分）

編集後記



＊ 日本経営士会の佐藤敬夫氏は年頭所感で本年は「一般社団法人への移行手続き」と「定款の変更」を「知恵と革新」を印にする本会の最大任務と述べています。

＊ 河津桜へ行ってきました。寒いのなんの部咲きでした。

*3月1日(木): 鈴木栄治氏「企業支援コンサルから見た経営者の使命と役割」

*4月5日(木): 市川健治郎氏「企業に於ける信頼しうる財務諸表とリスク管理」

(社) 日本経営士会・一木会担当幹事です よろしくお願ひします

(会長) 西満幸 (企画) 南寛保 (財務) 高橋博道 (広報) 新見健司

何か変!

*文責 新見



一木会会報

(社) 日本経営士会 一木会発行

2012 年臨時創刊号



12 月 研究会と総会の内容

一木会 2011 年 12 月度研究会および総会を 12 月 1 日に開催しました。前半、山下恭司氏による「最新の航空会社の経済諸情勢と展望」と題して、航空 40 年の歩みと山下氏自身の全日空での経験に基づいた講演内容でした。世界の航空界はもとより JAL および ANA の財務面から見た分析、特に JAL が破綻に至る理由、また今後の再生プロセスなどは興味深いものでありました。

山下氏は経歴からも推し量れるように財務・運航管理に明るく、航空機の安全および安心に際しての講話が経営士としても共感する内容でした。ホテルグランドヒル市ヶ谷鼓の間にて会員および会員ほかの方々ご出席にて熱心な研究会が行われ、後半の総会に引継されました。今回も実践に即した収穫の多い研究会内容でした。

2011 年度一木会総会は 16 時 30 分より同会場にて開催しました。総会前半は本年度事業報告（各月開催された研究会講義内容等）の説明と成果報告がありました。次に事業収支報告があり、出席者一同決算内容に承認が得られました。来期の事業計画（案）の発表が引続き行われ、現幹事による会運営を再委任することが了承され、総会は無事終了しました。

なお、決算内容等は当日出席者全員に総会資料として配布しました。

一木会とは？ 一木会が目指すもの！

一木会は (社) 日本経営士会に属し、経営士のスキルを高める目的で 1969 年に発足し、爾来 43 年の長きにわたり諸先輩方々は研鑽と実践を重ねてまいりました。ちょうど「坂の上の雲」の歌詞の様に！

《 小さな光が 歩んだ道を照らす、希望のつぼみが 遠くを見つめていた、迷い悩むほど 人は強さを掴むから 夢を見る、凜として旅立つ 一朵の雲（木）を目指し… 》

経営士（マネジメント・コンサルタント）は一木会で出会いの場を得各専門のスキル研鑽を行い、ディスカッションにより、ともに理解の輪を広げるとともに互いの人格を高めることを目標にします。

今後のスケジュール（場所：ホテルグランドヒル市ヶ谷 2F 鼓の間 JR3 分）



当日セミナーの様子

山下恭司氏 略歴

1947 年静岡生まれ、1970 年全日本空輸に入社、運航管理者取得、大学院終了、税理士資格取得。2004 年日本飛行船代表、航空象、財務管理、安全管理等を得意分野とする（千葉支部）。

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

一木会および経営士会それぞれに高齢化の波があり、会員の参加が低迷傾向にあります。継続の保つ意味も含め会報を発行することに致しました。皆様の忌性

今月（1月）は休会となります。2月の講師は佐藤富夫氏、3月の講師は鈴木栄治氏の予定です。なお、詳細はそれぞれ「月系研究会案内版」にて開催前月上旬にメールで御案内いたします。

いご意見を歓迎するとともに、
後も気負いなく開催を続けて
木会の出会いと発展を求めて
きたいと思います。文責新見

（社）日本経営士会・一木会担当幹事です よろしく申し上げます

（会長）西満幸 （企画）南寛保 （財務）高橋博道 （広報）新見健司 HP：<http://ichimokukai.la.coocan.jp/>

日本経営士会一木会研究会報告

2012～1997		<整理中>
1995～1996	整理済	
1904～1994		<整理中>
1969～1993	資料不明	

◆ 日本経営士会一木会「1996年（平成8年）11月」研究会報告

1. 日 時 : 11月7日（木） 18:00～20:00
2. 会 場 : 学士会館 307号室（神田錦町）
3. 演 題 : 投資傾向から見た企業経営について
4. 講 師 : 蒲田慎一先生

<出席者> 有元博之, 岩波重吉, 小野雄司, 神門昇三, 荏部宗治, 小谷泰三, 榊原貞夫, 佐原茂, 佐藤太一,
白石國爾, 中村新一, 矢野雄次郎 (12)

◆ 日本経営士会一木会「1996年（平成8年）10月」研究会報告

1. 日 時 : 10月3日（木） 18:00～20:00
2. 会 場 : 学士会館 301号室（神田錦町）
3. 演 題 : 日本の防衛について考える
4. 講 師 : 杉山 蕃 先生

航空幕僚長

<出席者> 天野勇, 岩野邦久, 上田亀之助, 小野雄司, 神門省三, 木村時博, 佐原茂, 佐藤允,
佐藤太一, 富永武二, 中神吉旦, 中村新一, 西正昭, 矢野雄次郎, 山内省三, 丸井新太郎 (16)

◆ 日本経営士会一木会「1996年（平成8年）9月」研究会報告

1. 日 時 : 9月5日（木） 18:00～20:00
2. 会 場 : 蔵前会館 7F
3. 演 題 : 情報サービス・ビジネスについて
花王のソフトサービスビジネス参入の試み
4. 講 師 : 栗山豪八先生

<出席者> 有元博之, 岩波重吉, 上田亀之助, 小野雄司, 小谷泰三, 栗山豪八, 佐原茂, 佐藤允, 佐藤太一, 白石國爾, 中神吉旦, 中村新一, 野池敬三 (13)

◆ 日本経営士会一木会「1996年（平成8年）6月」研究会報告

1. 日 時 : 6月6日（木） 18:00～20:00

2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)

3. 演 題 : I P 入門セミナー

～まったく新しい知的生産システム「I P システムツール」

I P メモから始める経営改善& I P メモで構築する I P 戦略情報システムづくり事例紹介と今後の展望～

4. 講 師 : 山本英夫先生

(株)エデックス社長, 南関東支部

<出席者> 小野雄司, 織方盛男, 荻部宗治, 神門昇三, 佐原茂, 中神吉旦, 中村新一, 野池敬三, 矢野雄次郎,

丸井新太郎 (10)

◆ 日本経営士会一木会「1996 年 (平成 8 年) 5 月」研究会報告

1. 日 時 : 5 月 9 日 (木) 18:00~20:00

2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)

3. 演 題 : 創造的破壊の時代 (大変・魅力・儲ける・迷える・感性の時代)

(乱世に生き残るための 5 つの考え方 (量から出直し, 利用 (コース) からの出直し, 業からの出直し, 理解しようと思わず「解釈」しようと思うこと, 知識より「実践の知」をこやすこと), コンサルティングと感性的思考

4. 講 師 : 伊沢喜美子先生 (イドビジネスプロモーション所長, 東京支部)

<出席者> 上田亀之助, 小野雄司, 川村明, 神門昇三, 佐藤太一, 高橋一男, 中村新一, 矢野雄次郎, 山内省三, 丸井新太郎 (10)

◆ 日本経営士会一木会「1996 年 (平成 8 年) 4 月」研究会報告

1. 日 時 : 4 月 4 日 (木) 18:00~20:00

2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)

3. 演 題 : パソコン通信とインターネット

(21 世紀は電話・FAX からインターネット時代へ, マルチメディアと高速データ通信網の普及で爆発するインターネットビジネス, C A L S とインターネットは企業のオープン化を加速する, コンサルタントはインターネットを使いビジネスに活かせるか)

4. 講 師 : 小谷泰三先生 (東芝物流)

<出席者> 有元博之, 岩波重吉, 岩瀬清浄, 上田亀之助, 小野雄司, 小谷泰三, 織方盛男, 荻部宗治, 神門昇三, 中神吉旦, 広田彰夫, 納富俊光, 矢野雄次郎, (13)

◆ 日本経営士会一木会「1996 年 (平成 8 年) 3 月」研究会報告

1. 日 時 : 3 月 7 日 (木) 18:00~20:00

2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)

3. 演 題 : 戦略的情報商品で市場をつかめ

(戦略的情報商品とは意思決定者が即断のできる最も集約された情報, “アサヒビール VS サントリービール コスト・ベネフィット比較係数で 82:5 の差”, “業界大手が参入? 敵の戦略を探り, 自社の先日を磨く”, “売れない合理化機械を売り込むには, 商品見積書ではなく, コストダウン見積書を作成”, “開発と営業を連携・強化するには 情報化時代の事業は, 営業力と開発技術力が双璧”, “商品がもつ企業貢献度を上げる 導入期から衰退期に至る商品群のバランスをとる”

4. 講 師 : 菅原務先生

<出席者> 岩瀬清浄, 上田亀之助, 小野雄司, 川村明, 神門昇三, 栗山豪八 (5)

◆ 日本経営士会一木会「1996 年 (平成 8 年) 2 月」研究会報告

1. 日 時 : 2 月 1 日 (木) 18:00~20:00

2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)

3. 演 題 : 古文書の面白さ

(古文書とは, 古文書と私, 古文書の歴史, 古文書の実例, 古文書研究と今後の展開

参考資料 後白河天皇宸筆御消息, 源頼朝発, 起請文, 東寺同境内禁制, 江戸時代離別状)

4. 講 師 : 高橋正彦先生 (慶應義塾大学文学部教授)

<出席者> 天野勇, 伊沢喜美子, 岩瀬清浄, 小野雄司, 北見堯, 神門昇三, 川村明, 佐原茂, 白石國爾, 高橋一男, 西正昭, (11)

◆ 日本経営士会一木会「1995 年 (平成 7 年) 12 月」研究会報告 総会, 忘年会

1. 日 時 : 12 月 日 (木) 18:00~20:00

2. 会 場 : 日立建機信濃町クラブ

3. 演 題 : 総会

会計報告

収入 722,487 円

(年会費 (前年度繰越金 35,487 円, 38 名@3,000 円=114,000, 月例会費 113,000 円 113 名@1,000 円, 月例懇親会費 431,000 円, 支部補助金 20,000 円, 寄付等 9,000 円)

支出 763,174 円

(雑費 71,402 円 (文房具, 印刷代等), 通信費 41,950 円 (往復はがき, 切手), 月例会講師謝礼 8,000 (8 回@10,000 円), 学士会館室料 100,410 円, 月例懇親会代 417,912 円 (前年忘年会, 5 月例会分含む), 5 月例会バス代 51,500 円) 次期繰越金▲40,687 円

*赤字転落理由 ①会場費 50%アップ, ②5 月例会収支バランス, ③月例会費 500

円減

*改善案

①月例会費 2,000 円, 支部補助会増額

4. 講 師 :

〈出席者〉天野勇, 荒谷光明, 岩瀬清浄, 上田亀之助, 小野雄司, 北見堯, 神門昇三, 川村明, 苅部宗治, 佐藤允, 中村新一, 野池敬三, 細谷孝至 (13)

◆ 日本経営士会一木会「1995 年 (平成 7 年) 11 月」研究会報告

1. 日 時 : 11 月 2 日 (木) 18:00~20:00
2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)
3. 演 題 : マルチメディアとマーケティング
4. 講 師 : 奥村治先生

マーケティングディレクター

〈出席者〉岩波重吉, 岩瀬清浄, 木村時博, 織方盛男, 嘉山晴久, 神門昇三, 苅部宗治, 木村時博, 高桑正博, 高橋一男, 中神吉旦, 林敬雄, 矢野雄次郎 (13)

◆ 日本経営士会一木会「1995 年 (平成 7 年) 10 月」研究会報告

1. 日 時 : 10 月 5 日 (木) 18:00~20:00
2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)
3. 演 題 : 中高年のメンタルヘルスについて

食◇楽◎考▽ (敗戦・サツマイモ・青春, 健康に良い向日葵オイル, 缶入りやめ う

まい紅茶を, サラリーマンとフォアグラ)

4. 講 師 : 栗原雅直先生 医学博士

大蔵省診療所長 (平成 2 年~), 元虎の門病院精神科部長, フランス留学

著書:「壁のない病室」 「川端康成」 「健康は自分で守ろう」 (中央公論社)

〈出席者〉岩瀬清浄, 小野雄司, 栗山豪八, 神門昇三, 佐藤允, 田中栄, 富永武二, 中神吉旦, 中村新一, 長塩文良, 矢野雄次郎, 山口宗秋 (10)

◆ 日本経営士会一木会「1995 年 (平成 7 年) 9 月」研究会報告

1. 日 時 : 9 月 7 日 (木) 18:00~20:00
2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)
3. 演 題 : 新借地, 借家法に対する税務について
~ 定期借地権の税務について ~
4. 講 師 : 桜井ミス先生

桜井税務会計事務所, 東京支部

〈出席者〉有元博之, 岩瀬清浄, 小野雄司, 木村時博, 神門昇三, 佐藤允, 佐原茂, 佐藤太一, 高橋一男, 中村新一, 西正昭, 山内省三 (12)

◆ 日本経営士会一木会「1995 年 (平成 7 年) 8 月」研究会報告

1. 日 時 : 8月3日(木) 18:00~20:00
2. 会 場 : 学士会館 307号室(神田錦町)
3. 演 題 : ISO9000とPLに適合するテクニカル文書

(PL(製造部に対する責任)とは, SGML(標準汎用マーク付言語), CALS(コンピュータ支援による)とは, ISO9000とは)

(正確で品位のある文章を書くために: (1) 正確さは必要条件, (2) 正確の文章のための検証, (3) 文章にも法的規制がある (①他人の著作権を侵害しない, ②自分の著作権は侵害されないように保護する), (4) 引用と転載に関する知識 (著作権法第32条第1項から) (①出典および著者を明確にする, ②引用する資料は, 引用する著作者の内容に対して銃の関係にあること, ③引用資料と引用する著作物の内容との区分を明確にすること, ④必要不可欠な部分だけを引用すること), (5) 引用と転載の違い (引用には許可がいらないが, 転載には必要 (著作権法第32条第2項)), (6) 登録商法(®)と商標の扱い方(™)の扱い方, (7) 公正競争規約 (永久する語は使用できない, 完全・安全を意味するよう用語は断定的に使用できない, 最上級と優位性, 比較表示, 節電・節約を意味する用語には具体的根拠が必要である, 全自動・電子式・ポータブルなどは業界の規定に合致するもの, (8) 不適切表現を皆無に)

(明確, 簡潔な文章テクニック: (1) わかりやすさに徹する, (2) 「読み手」は誰か, (3) やさしい言葉で短く書くこと, (4) 「事実」と意見を分ける (瀬島龍三氏のことばの持つ意味, 与えられた情報に対して, ①概略を把握しなさい, ②深く読み, 深く聞き, 好かくたたきなさい, ③希望的観測と事実を明確に分けなさい), (5) 事実の分析 (継続的, 歴史的, 科学・技術上, 理念・通念, 教養的事実), (4) 意見にもいろいろなレベルがある (推論, 判断, 意見), (7) 主題を明確に挙げる, (8) あいまいな表現はしない, (9) テクニカル文書の構成を考える (起承転結, 序破急, パラグラフとブロック, 序論・本論・結論), (11) ビジネス文書全体のパターン化管理を推進する)

4. 講 師 : 高橋昭男

テクニカルライター

著書: わかりやすいマニュアルの作成法」(日経BP社), 「わかりやすいマニュアルをつくる」(共著, 日本工業規格, 「クレーム管理システム」(共著, 総合技術センター), 「横書き文章読本」(日経BP出版センター) 他)

<出席者> 岩波重吉, 岩瀬清浄, 小野雄司, 北見堯, 神門昇三, 荏部宗治, 白石國爾, 菅原務, 高橋一男, 西正昭, 野池敬三 (11)

◆ 日本経営士会一木会「1995年(平成7年)6月」研究会報告

1. 日 時 : 6月1日(木) 18:00~20:00
2. 会 場 : 学士会館 307号室(神田錦町)
3. 演 題 : ベトナムの魅力

(人口, 主要経済指標, 工業生産, ベトナムの抱える課題と市場としての魅力, ベトナム投資の) 状況)

4. 講 師 : 榊原三郎

日商岩井常務取締役

〈出席者〉 岩瀬清浄, 小野雄司, 神門昇三, 木村時博, 白石國爾, 鈴木謙太郎, 中神吉旦, 中村新一, 長塩文良, 奈良岡行雄, 野池敬三, 矢野雄次郎, 山内省三 (12)

◆ 日本経営士会一木会「1995 年（平成 7 年）5 月」研究会報告

1. 日 時 : 5 月 13 日 (木) 18:00~20:00
2. 会 場 : アサヒビール茨城工場, 筑波研究学園都市
3. 演 題 : つくば学園都市を散策してみよう
4. 講 師 : 松下哲治先生

アサヒビール茨城工場所長他

〈出席者〉阿部幾応, 岩野邦久, 岩瀬清浄, 上田亀之助, 小野雄司, 北見堯, 栗山豪八, 神門昇三, 佐藤允, 染谷文夫, 長田勇雄, 中園雄二, 中村新一, 八木弘二, 疋田知三, 山内省三, 横山理一郎, 松田一郎, (18) 会長: 小野雄司

◆ 日本経営士会一木会「1995 年（平成 7 年）4 月」研究会報告

1. 日 時 : 4 月 6 日 (木) 18:00~20:00
2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)
3. 演 題 : 機械工学とイノベーション
4. 講 師 : 鯉淵與二先生

東大教授

〈出席者〉岩野邦久, 岩波重吉, 岩瀬清浄, 小野雄司, 北見堯, 栗山豪八, 神門昇三, 後藤章, 佐藤允, 高桑正博, 高橋一男, 富永武二, 中神吉旦, 中村新一, 野池敬三, 平田礼治, 矢野雄次郎, 疋田知三, 山内省三, 山口宗秋, 横山理一郎 (20)

◆ 日本経営士会一木会「1995 年（平成 7 年）3 月」研究会報告

1. 日 時 : 3 月 2 日 (木) 18:00~20:00
2. 会 場 : 学士会館 307 号室 (神田錦町)
3. 演 題 : 21 世紀に通じるシェアリング マネジメントについて

講演資料から一部抜粋 (文責, 西満幸)

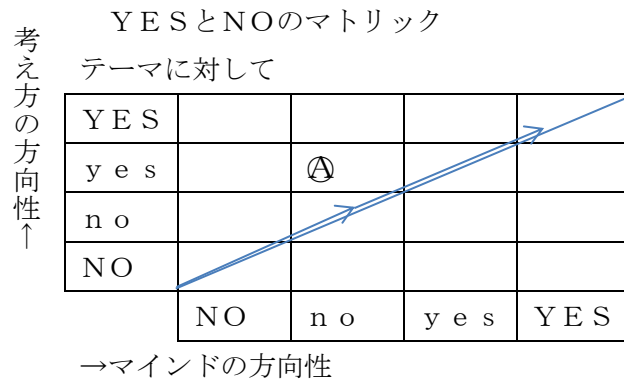
(誰が, 誰と, 何を, 何の目的で, どのような時間を, どのような方法でシェアリング (共感し・わかちあう) するか)

1 (目的達成のためのシェアリングマインド:

①目的設定するテーマへの参加者の共感度の高さ, ②グループライダーに対する「信頼度」, ③他社に対する「思いやり」, ④他社との違いを認める「寛容さ」, ⑤他者の考えを心を傾けて聞く「謙虚さ」, ⑥オープンマインドなグループの自由な雰囲気, ⑦メンバーの役割分担の明確さと責任感, ⑧グループルールの規律性, ⑨時間価値意識の高さ, ⑩型にとらわれない自由な発想を受け入れる度量の大きさ)

2 (大きなYESとNOの間には小さなyesとnoがある:

効果エネルギーの方向性 YESとNOのマトリックス，テーマに対して，NO-n o-y e s-Y E Sの4段階（Y軸），NO-n o-y e s-Y E Sの4段階（X軸）



Y軸：考え方の方向性，①肯定的にか否定的に考えるか，②積極的か消極的か，③とらわれず自由な発想か型にはまった発想か，④楽観的か悲観的か，⑤発想の出発点が現実的か非現実的か，⑥実現可能値か期待可能値か，X軸：マインドの方向性，①俺が俺がか他者への謙虚さはあるか，②個人プレーかグループのルールを守れるか，③他者への思いやりがあるか，自分勝手か，④自分の言いたいことだけを主張するか，他者に耳を傾けるか，⑤リーダーへの信頼度は高いか

3 収益性改善のための時間損益システムの根源的考え方

新しい世紀に向かってどのような価値観を世界が共有できるのかあらゆる分野に渡って問われている 21 世紀に向かう時代の大きな流れを「S H E A R I N G—分かち合い—」という視点から捉える．考え方を“S H E A R I N G+何を+W I T H誰と”；基本コンセプトとする．時間によって自主的に時間を管理する時間損益システムによって実現目標値を設定し，より高付加価値を創出する．関係者に成果分配シェアリング出来る．チャレンジ精神を引き出しヒューマンパワーを持続的，集中的，集合的に発揮させる．

創出付加価値／目標付加価値≡シェアリング度合い(ヒューマンパワー発揮度 x 時間 x 情報 x (質 x 量))

- ① 「シェアリング度合い」全体及び個別の実現可能目標値の設定への参加度合いによって左右される．
- ② 「ヒューマンパワー発揮度」はヤル気というエネルギーである．発揮度は $-\infty$ より $+\infty$ までである．チームワークの喜び，努力の喜び，成功の喜び，改善創意工夫の喜び，自信獲得，信念的要素，信頼の強化，未来性への期待，自己意識の改革等が生まれる．
- ③ ヒューマンパワーは単なる労働エネルギーではない．チャレンジすべき目標がある場合は意識が目標値に向かって+エネルギーとして発揮される．リー

ダーシップ、創造性、学習獲得能力、システム思考、第三の目の開発を伸長させる。

- ④ 適切な情報は、パワーの発揮度を高める。仕事情報の伝達、受信を「適切な時にしっかり確認し、関係する人に正しく連絡、報告する」機会損失を防ぎ、付加価値を高める行為である。情報には適切な「知識」という概念もあるが「刺激」という概念もある。
- ⑤ 企業経営は「定められた時間内での競争である」時間は誰にでも等しく分配されている。プラスにもマイナスにももちうることが出来る。「時は金」であると同時に「金は時」である。「金額表示での目標」より「時間で目標」を示すほうが良い結果をえられやすい。
- ⑥ 目標値に対してゼロ地点の確認をまえもって知っていることは目標値に到達する上で有効である。数字は－, 0, ＋で表示される。交通信号の赤, 黄色, 青, の表示に置き換えると理解しやすい。ゼロ地点とは損益分岐点100%のところである。
- ⑦ 21世紀は始まっている。量を競うのではなく質を競う時代である。また高度情報社会が実現するほど「主役である人間本来の働きがより期待される。」ヒューマンエネルギーの開発がメインテーマである。

シェアリングというコンセプトは内外のすべての分野に渡り新時代のトレンドとなると確信する。 4
マイナスからプラスにエネルギーを変える方法

② 具体的な実現可能な目標値を設定できる事

- ②目標設定には関係者が参画すること
- ③その目標値に対し経営者、社員双方の理解の一致があること
- ④目標値に対して実現可能な方法および条件が具体的に計画されていること)

実現可能な目標値

(NO-n o-y e s-Y E Sの4段階 (Y軸), NO-n o-y e s-Y E Sの4段階 (X軸))

- ① 目標設定はビジネスの成功を左右するとの強い認識の一致が関係者に必要。
- ② 計画は具体的に数字で示す。
- ③ 目標達成の期限を示す。
- ④ 時間は最大のコスト—費用—であるとの認識が必要。
- ⑤ 完成までの時間計画を工事毎に設定する。
- ⑥ 指示は具体的に、何をいつまでに、話して、書いて指示する。
- ⑦ 工事管理者は熟練したタイムキーパーであることを期待されている。
- ⑧ ⑧誰もが良き仕事人になるには「必要な時に必要としている人に適切な情報を連絡、確認、報告」出来ることである。
- ⑨ 実行途中管理は予定利益実現に大切。現在までの経過と残された目標までの時間の確認。

YESとNOのマトリック

YES				
y e s				
n o				
NO				
	NO	n o	y e s	YES

設定目標値及び設定条件の妥当性

YESは出来る

y e sは出来るかもしれない

n oは出来ないかもしれない

NOは出来ない

4. 講 師 : 川又敏裕先生
北関東支部長

<出席者>有元博之, 岩瀬清浄, 上田亀之助, 小野雄司, 風間和則, 神門昇三, 荏部宗治,
(川又敏裕), 後藤章, 佐藤允, 佐原茂, 白石國爾高橋一男, 中神吉旦, 中村新一,
奈良岡行雄, 平田礼治, 山内省三, 山本功 (19)

◆ 日本経営士会一木会「1995年(平成7年)2月」研究会報告

1. 日 時 : 2月2日(木) 18:00~20:00
2. 会 場 : 学士会館 307号室(神田錦町)
3. 演 題 : 21世紀の経営(観照, 道徳, 和敬, 創新)

<当日配布資料より抜粋, 文責西満幸>

1) 経営とは, 人間が環境の中のモノゴトをより良く保つ為の活動です

経営は常に, 新しく新鮮でなければいけません. しかも, それは質的に高く, 偏らない中庸な, 回りと調和したものでなければなりません.

2) 21世紀とは, どのような時代になるのでしょうか?

①人口爆発, ②食糧生産の減退, ③エネルギー源の枯渇, ④熱帯林の減少, ⑤砂漠化, ⑥地域紛争の多発激化と難民の激増, ⑦戦争等による死者の数が激増している, ⑧麻薬常用者の増加とエイズの世界蔓延, ⑨環境汚染の激化と資源の枯渇, ⑩酸性雨, ⑪地球温暖化, ⑫フロンガスによるオゾン層の破壊, ⑬人間関係の問題(合意形成),

3) 21世紀の経営: ①観照, ②道徳, ③和敬, ④創新

たとえ, 科学や技術がどんなに進歩しても, また, コンピュータがどんなに発達しても「経営」を行うのは人間の人間としての活動です. 従って, 経営に当たっては, 人間がどのような「心構え」によって人間行動がするかが最重要になってきます. この「経営の心構え」は, 恐らく, 古今東西にわたって普遍的で妥当な人間の精神活動に依るものだと考えております. それを普遍的な四つの言葉にまとめますと, ①観照, ②道徳, ③和敬, ④創新 というキーワードになると思っています.

①観照とは、知恵をもって事物の実相をとらえること、対象を主観を交えずに冷静にみつめること、美を直接的に認識すること、美の直感、モノゴトを的確に、謬る事なく、騙されることなく、偏る事なく把握する事。

②道徳とは、「道」とはこの宇宙全体にわたる最高の原理、原則、法則を意味し、「徳」とは、その「道」に則って人がモノゴトを実行する事（『老子の道德経、五千言』）現在の倫理的意味と異なる。「最高の法則である道」は必要に応じて変化するからこそ道（道可道、非常道）。「変化こそ道」、「経営」も変化、ファッションも変化、政治も変化であり、改革であり、改新。

③和敬とは、心をやわらげて相手をうやまうこと。「和」とは、異なるモノとかコト同士が強調し、ハーモニーすること。良好な人間行動における万国共通の態度。

④創新とは、創造と更新の複合語で、英語の Innovation にあたり企業発展の原動力。①新しいものの考え方、②新しい研究開発、③新しい組織、④新しい技術、⑤新しい生産システム、⑥新しい商品（製品）、⑦新しい販売方法（Marketing）、⑧新しい顧客の創造、⑨古くなって役に立たなくなった物から新しい、より良い物への更新など。「日に新た、日に日に新た、また日に新た」。

4) 21世紀の経営が果たさなければならない課題

(1) 経営の基本の心がけは：①かたよらない、②とらわれない、③こだわらない、④騙されない（中庸のこころ）、（中道を行くこと）、（和の尊重、（異との和）

(2) モノゴトに対処する時行うべき事は：①観照 ②道徳 ③和敬 ③創新

(3) 人間行動のあり方：① 古き好きものの保ちながら（伝統の保守・尊重）

① 日に日に新たと、創新し（創造と更新：イノベーション）

② 手に入るあらゆる資源を活用し（転んでもただでは起きない）

③ 事態に対応して、充分に適応する（和）

(4) 暮らしの在り方：①早寝、早起き ②腹八分目 ③働きましょう、張り切って

④夢を抱いて、ひたすらに（なまける時は、しっかりなまける

(5) 暮らしでの行い：①よく眠り ②よく飲み ③よく食べ ④よく遊び ⑤良く学び ⑥よく考え ⑦よく付き合い ⑧よく働く

(6) イノベーションの4つの段階：①発想（アイデア） ②構想 ③具象化 ④具体化

(7) 事業経営に当たって常に考慮すべきこと：

①環境汚染は自然回復力の範囲内で（何かを行いますと、必然的にある程度の汚染が起こりますのはやむを得ませんが、環境汚染は可能な限り少なくすること）

③ 資源・省エネルギーに徹する事（自動車運送を鉄道輸送に切り替えと、トン/キロ当たりのエネルギー消費を四分の一に減らせます。石炭ストーブよりも炬燵）

④ 自然破壊を慎む事：自然を破壊しますと、究極的には人間も生きられなくなります。

④ 人間関係の和を大切にすること：企業経営も国際関係も資源関係も和と人間性で

(8) 再生不可能な資源（例えば、石油、天然ガス、石炭、金属鉱石等）は自分等の世紀で使い切ってしまうので、我々の子孫にも残してやる事、

(9) 石油や石炭や天然ガスを燃料として消費してしまうのは勿体ないことですし、資源的にも限られていますの。これらを燃料として浪費する事はやめにして、化学品の原料資源として活用しましょう

(10) 化石燃料は可能な限り太陽光エネルギーのようなクリーンエネルギーに転換する

(11) 21世紀の経営の志向する分野については、下記の項目について検討し実践する。

① 人間個人： 保険衛生 無病息災 元気澆刺 不老長寿

(ア)家族関係： 夫婦円満 一家団欒 家内安全 近隣交友

(イ)知的活動： 立志実行 自学自習 自己啓発 創造更新（創新：Innovation）

(ウ)仕事の実践： 知覚才覚 勤勉協力 楽働清閑 奉仕貢献

(エ)産業社会： 技術立国 進歩発展 成長調和 産業繁栄

(オ)環境整備： 公害防除 環境保全 自然回復 資源潤沢

(カ)国政行政： 政治順行 行政円滑 治安平穏 防衛完璧

(キ)世界地球： 善隣友好 国際協調 世界平和 共存共栄

(12) 20世紀には経済はすばらしく発展しましたが、一面、汚染と破壊の世紀でした。

21世紀は是非、調和と平和の健康的な世紀にするような経営に心掛けましょう。

4. 講 師： 上田亀之助先生

上田イノベーション研究所

杉野女子大講師

<出席者>

岩波重吉，岩瀬清浄，上田亀之助，小野雄司，風間和則，神門昇三，佐藤允，佐藤太一，高橋一男，中神吉旦，中村新一，長塩文良，池敬三，平地睦男，横山理一郎（15）

<1990～1994年>整理中

1990年か以前は資料なし？

◆ 日本経営士会一木会「1994年（平成6年）月」研究会報告

1. 日 時 : 月日（木） 18:00～20:00
2. 会 場 : 学士会館 307号室（神田錦町）
3. 演 題 :
4. 講 師 :

<出席者>

1995年～1996年出席メンバー

天野勇，阿部幾応，荒谷光明，有元博之，伊沢喜美子，岩波重吉，岩野邦久，岩波重吉，岩瀬清浄，上田亀之助，小野雄司，木村時博，北見堯，栗山豪八，小谷泰三，織方盛男，風間和則，嘉山晴久，神門昇三，川村明，荻部宗治，川又敏裕，木村時博，榊原貞夫，後藤章，佐藤允，佐原茂，佐藤太一，白石國爾，菅原務，鈴木謙太郎，染谷文夫，高桑正博，高橋一男，田中栄，富永武二，中神吉旦，長田勇雄，中園雄二，中村新一，長塩文良，西正昭，奈良岡行雄，野池敬三，納富俊光，林敬雄，平田礼治，平地睦男，広田彰夫，細谷孝至，八木弘二，矢野雄次郎，疋田知三，山内省三，山口宗秋，山本功，横山理一郎，松田一郎，丸井新太郎（25）